

## 1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		商店街（代表者）	販売量の動き	・前年に収穫された果物が豊作だったこともあり、やや持ち直し傾向にある。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・1都10府県に出されていた緊急事態宣言が徐々に解除されたこともあり、3か月前と比べると人の動きが出てきている。直近の旅客数は3か月前の半分程度まで回復している。前年比では140%を超えているが、前年の今頃はちょうど北海道独自の緊急事態宣言が出ていた時期であるため、比較にならない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの沈静化に伴い、人も少しずつ増えてきている。ただ、いまだに新型コロナウイルス流行以前の水準には戻っていない。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・徐々に売上が前年を上回っている。特に特選品、時計、宝飾などの高額商材の動きが良い。来客数も、国の緊急事態宣言が終了したことで、前々月や前月と比較して増えている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・国による緊急事態宣言が解除されてから、来客数が顕著に増加している。この傾向はしばらく続く。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は北海道独自の緊急事態宣言発出の影響もあり、衣料品、日用品が大幅に落ち込んだ月であったが、今年は商材の動きも来客数も前年以上となっている。ただし、衣料品はフォーマル、スーツなど、ビジネス関連商材の動きが悪く、販売量は一昨年の80%程度にとどまっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の影響で酒類の出荷量が減っていたが、3月に入ってやや回復の兆しが見られる。ただし、今後、感染状況が拡大したり、行政から再度の自粛要請が出されたりすることも懸念されるため、このまま回復基調が続くかは不透明である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は増加してきているが、来客数は新型コロナウイルスの流行が一巡しているにもかかわらず、いまだに減少傾向で推移している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・最悪だった前年を基準にすると販売量は改善しているが、一昨年の70%の水準にとどまっている。ただ、国による緊急事態宣言が解除されてから、月末に向けて販売量が大きく伸びていることから、今後の動向に期待している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・春の増販期を迎え、人の動きも若干活発になってきている。新車、中古車、サービスのいずれの部門においても販売量が増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・3月は決算期ということもあり、持ち直しの動きがみられる。客の来店が増えており、それに伴い成約数も伸びている。国による緊急事態宣言が解除されたこともプラスとなっている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・前年と比べて来客数が大幅に増えており、受注量もほとんどの店舗で前年を超えている。このままの状態が続けば景気は上向くことになる。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・3月の売上は厳しかった前年を上回ったが、例年の40%台にとどまるとみられる。昼は、曜日によって増減がみられるものの、全体的には回復傾向にある。知人の飲食店も昼は盛況だが、曜日によって安定しないとのことであった。街中の人出は増えているが、子供や学生など、レストランに来店しそうな客層が多い。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・海外からの観光客は引き続き皆無であるが、Web経由での国内ビジネス客、観光客の予約に回復の兆しが見られる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染対策が浸透しているなか、ワクチン接種が開始されたことにより、行動自粛から経済回復にシフトし始めている。既に北海道内のビジネス需要は2月から回復傾向となっている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3か月前はGo To Travelキャンペーンが一時停止となったことで、年末の予約がキャンセル続きとなり、新規の予約が全くない状態であった。現在は多少の販売がみられるため、景気はやや良くなっている。
		通信会社（企画担当）	来客数の動き	・街中の人出が明らかに増えており、それに伴って店舗の来客数も回復している。大型スーパーやドラッグストアなどでの出張販売においても、都市部、地方を問わず人出が大幅に増えており、通信機器の販売量も、サービス契約者数も中高年を中心に回復基調にある。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月19日以降、来客数が明らかに増えている。週を経るごとに増加幅も拡大している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・不要不急の外出自粛要請の解除に伴い、各種文化教室の動きが活発になるなど、全体的に活気が出てきている。その結果、客の来店頻度も高くなり、売上がかなり増えてきている。今更ながら自粛要請の影響の大きさに驚いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・売上、来客数はほとんど変わらないが、客の雰囲気は良くなっている。購買意欲も上向いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・なかなか来客数が増えてこない。依然として商店街の来街者が戻っておらず、むしろ悪化している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・中心部を訪れる来街者数が低調なまま推移している。当地の感染者数について目立った改善がみられないこと、ワクチン接種について時期も含めて未確定の部分が多いことなどが大きな理由となっている。区域内における駐車場の利用客も、バス停の乗降客数も少ないままである。また、夜型飲食店では、昼間のテイクアウトなどにより若干利用客が増加する兆しが見られているものの、夜間は激減したままである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年の3月も今年の3月も客の来ない状況が変わっていない。売上は前年比で92.8%、一昨年比で23.2%となっている。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で一進一退を繰り返している状況にあり、景気は変わらない。
		百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は前年よりも増加しているが、一昨年と比較すると戻り切っていない。特に衣料品部門での集客は厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	それ以外	・引き続き新型コロナウイルスの影響がみられる。売上は前年よりも良くなっているが、一昨年と比較では90%とまだまだ悪い状況にある。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染対策の自粛疲れからか、感染者数のリバウンド傾向がみられる。ただ、感染者が増加しているなかであっても、客の消費行動は落ち着いており、極端な巣籠り消費も徐々にみられなくなっている。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、食品のまとめ買い需要が発生し、売上が伸びた時期であった。今年は内食が定着したこともあり、前年並みの売上を保っている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・当地域の感染者数が増えたことが影響したのか、3月初めの来客数は激減した。ただ、後半になってやや持ち直してきているため、全体としては変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・なかなか状況が改善されないため、販売量が上向いてこない。
		自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・北海道の新型コロナウイルス対策に景気が左右されている。3月27日に札幌市民の不要不急の外出自粛などが要請されたことで、景気が下向くことも懸念される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格高騰に伴う石油製品価格の値上げ、感染対策での行動自粛などが影響し、販売量は芳しくない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国による緊急事態宣言が解除されたことで一時的に来客数が増えたが、全国的に感染者数が落ち着いていないことから、来客数は依然として少ないままである。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・首都圏の緊急事態宣言が解除されたとはいえ、Go To Travelキャンペーンが再開するめども立っていないことから、旅行需要は以前と変わらずほとんどみられない。また、ワクチン接種がいつまでに一般市民まで行き渡るのかも未定なことから、客の旅行意欲が湧かない状況にある。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内のニュースなどをみても良い話が少なくこともあり、客は旅行を控えている。レジャーに割く時間を作ることが難しい空気になっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3月のタクシー売上は、前年と比較するとプラス10%であったが、新型コロナウイルス流行前の一昨年と比較するとマイナス30%程度であった。夜間の繁華街への人出は少しずつ増えてきたが、新型コロナウイルス流行前と比較するとまだまだ少ない。タクシー1台当たりの売上は前年比プラス20%であったが、一昨年と比べると、昼がマイナス10%、夜がマイナス30%であった。会社全体の売上は乗務員不足の影響もあり、前年比プラス10%にとどまった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍のなか、3か月前と同じような状況が続いている。新型コロナウイルスが終息しない限り、客の動きなどは変わらない。今後も、感染の再拡大などが無い限り、このままの状況で推移することになる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3月は当地においてクラスターが発生したことで、外出自粛の動きが極端に強まっており、前年と同様に稼働が伸びなかった。
		美容室（経営者）	単価の動き	・年度末にもかかわらず、客が消費を控えている雰囲気を感じられる。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに関する情報に左右されている客が多い。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・3月は天候に恵まれたことで欠航回数が少なく推移したものの、新型コロナウイルスの影響もあって、人、物共に輸送量が伸びなかった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客から、新型コロナウイルスの影響で景気が良くないという声がたくさん聞こえてくる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・不要不急の外出自粛などの要請が解除されたことで、3月は徐々に景気が回復に向かうと期待していた。1週目は全く駄目だったが、2週目から徐々に客足が戻り始め、4週目になると前年の半分を上回る程度まで回復してきたが、その矢先に再度の外出自粛要請などが出され、飲食店を中心に落胆を隠せず、途方に暮れている。規模の小さな飲食店では、先行きへの不安から、3月末での閉店を決意する店舗が続出している。
		スーパー（役員）	単価の動き	・巣籠り需要によって食品小売業の売上が良くなって1年が経過した。ここ数か月、客単価の上昇傾向はまだ続いているが、来客数は減少傾向にある。特に買上点数の減少が目立っており、それに伴って売上も減少してきている。
		スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの流行から1年が経過し、当初は内食需要の増加で売上が増加したものの、徐々に増加幅が縮小傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・買上客数が減少している。また、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかわからないこと、不要不急の札幌との往来自粛が要請されたことなどもマイナス要因である。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ドラッグストア業界においては、新型コロナウイルスの流行によって特需が生じていたが、現在はそうした動きにも落ち着きが見られ、通常と同様の状態に戻っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で飲食店は大打撃を受けている。地元客による夜の会合も余りみられないため、売上が増えてこない状況にある。観光客が唯一の頼りだが、観光客も増えてこない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが終息してこないことから、景気はやや悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3月上旬は夜間の人出が徐々に増えてきている様子がみられたが、一時的な動きにとどまった。新型コロナウイルスの感染者数が微増していること、政府や自治体による感染対策の呼びかけなどが影響したとみられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛ムードがいまだに解消されず、旅客事業の根幹たる人の移動ができない状況にある。飲食店も混迷を極めており、景気は後退している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況について、第4波を迎えるのではないかと懸念されていることで、不安感が増している。客の消費動向にも影響が出てきている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・例年2～3月は客の動きが活発になり、他の時期よりも商談件数が増える傾向にあるが、今年は外出自粛などの影響もあり、客の動きが良くない。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・道内の感染拡大が収まらないこと、首都圏の緊急事態宣言が延長されたことなどから、人の動きは余りみられず、一部店舗では休業や時短営業が続いている。このような状況において、来客数が伸びるはずはなく、景気は悪化の一途をたどっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・営業を再開したが、売り上げは良くない。これからどうなっていくのか見当も付かない。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・首都圏を中心とした緊急事態宣言の長期化により、道外客が皆無である。また、Go To Travelキャンペーンなど、旅行のきっかけとなるような施策もストップしているため、宿泊予約が低迷している。感染の再拡大を心配する声に押され、感染対策と共に進めるべき経済対策の進展が鈍いため、観光業の景気は引き続き下向きで推移している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・季節要因による需要低迷を考慮しても、客の外出機会が低迷しており、タクシーの利用が顕著に減少している。また、夜間の飲食店の利用については、プライベートでの需要が回復しつつあるものの、ビジネスでの需要に回復の兆しが全く見られない。旅客輸送についてはまだまだ厳しい状況が続いている。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度内工事は順調にしゅん工を迎えており、追加工事による上積みもあり、3月末決算は見込みを上回る利益額を確保できた。出足の鈍かった新年度工事についても、工場や物流倉庫の新規受注が決まり始めている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度末ということもあり、全体的に活発な物流となった。砂糖やでん粉などの農産品、バターや粉乳などの乳製品については、倉庫保管も積み上がってきている。また、飲料関連、雑貨のトレーラー輸送にも動きが出てきた。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・北海道による集中対策期間が3月7日で終了し、人の動きが活発化している。これに伴い、これまで低調であったサービス消費が増加しており、道内景気は新型コロナウイルスの感染が再拡大した3か月前と比べてやや良くなっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・相変わらず低調な受注状況が続いている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で人の行動が制限されているものの、慣れによって緊張感がなくなっていることで経済はそれなりに動いている。しかしながら、新型コロナウイルスの終息がみえていないことから、下振れ圧力が高まっている。こうした綱引き状態が受注状況にも反映されている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業績が計画どおりに推移しているなど、当社周辺の景況感についてはやや良い状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		司法書士	取引先の様子	・依然として新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、営業活動が縮小したままであり、不動産の購入意欲も低下している。観光や飲食店の景気も停滞したままである。
		司法書士	取引先の様子	・金融機関の住宅ローン新規貸出しの様子から判断すると、現状では余り変化がみられない。家庭内消費や生活に関する消費は増加傾向にあるが、新型コロナウイルスの影響で全体的な景気は下向きで推移している。ただ、一部ではマイホーム購入需要が増加している地域もみられることから、今後の景気については季節要因もあり、少しずつ上向くことになる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・首都圏では民間需要が弱含みで推移しているが、北海道においては例年どおりの公共工事がみられることから、まずまずの状況にある。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕(総務担当)	受注量や販売量の動き	・3月の売上は引き続きほぼ前年並みで推移している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕(支店長)	取引先の様子	・3月決算の企業が多いこともあり、設備投資が一時的に増加している。ただ、先行きについては不透明である。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕(従業員)	受注量や販売量の動き	・ここ最近、景気動向に動きがみられず、余り良くない状態が続いている。
		金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、建築工事において延期や遅延となっている案件がみられる。また、感染対策に予算を割かれたことで、予定されていた改修工事が中止となった例もみられる。
		建設業(従業員)	競争相手の様子	・数億円規模の民間建築工事の入札があり、予定価格の8割程度で落札された。応札価格はまちまちであったが、全体的に道内業者の応札価格が低くなる傾向がみられた。この結果から、今後の発注量の減少が避けられない道内建設業界の現状が現れているとうかがえる。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が続くなか、変異種ウイルスのことを気にする客が多くみられた。今後についても厳しい状況が続くとみている客が多い。
	×	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・2021年3月の販売量は前年比マイナス53%であったが、3か月前の2020年12月は前年比マイナス22%であったため、景気は悪くなっている。
雇用関連		-	-	-
(北海道)		求人情報誌製作会社(編集者)	周辺企業の様子	・中心市街地への人の出足はまだ鈍いものの、郊外のスーパーや飲食店では顕著な回復傾向がみられる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	採用者数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が下げ止まりとなるなか、北海道による集中対策期間が解除された。自粛の限界もあってか、飲食店の来客数が増加傾向にあり、それに伴って求人件数も徐々に増加している。宿泊業も若干ではあるが国内客の需要を取り込む動きが出てきている。また、職を失った人が新年度に向けて動き始めていることで求職活動も活発になってきている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・年度替わりに向けた季節要因も影響しているが、業種を問わず求人ニーズが増えてきている。
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・2月の有効求人倍率は1.26倍と前年を0.06ポイント下回ったものの、就職件数が前年を上回っている。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人意欲の旺盛な企業と採用を手控える企業に分かれている。飲食、観光関連などでは従業員の稼働が本来の6割程度しかなく、雇用調整助成金でしのいでいる企業が多くみられるなど、回復のめどが立っていない。積極的な求人を行っている企業は、業績の早期回復を目指し、客へのアプローチを積極的に行うなど、新型コロナウイルス禍にあっても意欲的にみえる。企業の動きが両極端となっているため、全体的な景気は変わらないと判断している。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・例年、年度替わりの時期に求人数が増える傾向がある。新型コロナウイルス禍における今年も同様の傾向がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・景気動向について大きな変化はみられない。当地域における新型コロナウイルスの感染状況は終息しているが、企業動向にそれほど大きな変化はみられず、やや停滞気味での推移となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地域における2月の有効求人倍率は0.83倍であり、3か月前の11月と比較して0.05ポイント下回っているなど、低下傾向がみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・今年度の本学の新卒内定率はリーマンショック以後で最悪の状態にある。最終的な数値が分かるのは2週間後であるが、新型コロナウイルス禍のなか、企業の新卒採用の動きは非常に厳しいものがあった。2022年卒の学生についても企業の慎重な姿勢がうかがえることから、しばらくは厳しい状態が続く。
		*	*	*
	x	-	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (東北)		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・ここ数か月徐々に上向き傾向だったが、今月は衣料品も稼働している。気温の上昇もあり、購買意欲が比較的高くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・春の訪れとともに卒業入学準備等でいつもの人の流れに戻りつつある。新型コロナウイルスの影響で冬場は自粛ムードが高まっていたが、予防接種の開始やコロナ禍の長期化による自粛疲れからか外出が多くなってきている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・天候のせいもあってか最近では客が戻ってきている。そして、ある程度のまとめ買いが増えているので、販売量の動きは良い。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・2019年実績と比較すればまだ回復していないが、前年実績に対しては120%と伸長しており、3か月前より改善している。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・夕方から夜に掛けて来客数が若干増加している。それにつれて、アルコール対策用のドリンク等が動いている。深夜帯は依然回復には至っていないが、客足が伸びてきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数微増傾向により、売上も幾分回復傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・雪からやっと解放され、春物も動き出している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・長く着用できる高額な良品を購入されるケースが多くみられ、客単価アップにつながっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3月で新型コロナウイルスの影響が開始してから約1年たった。前年は全ての入社式、入学式、場合によっては卒業式が中止となり大打撃を受けた。今のところはそこまでの状況にはなっておらず、前年よりは上向きになっている。また、企業の転動も動いているようである。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・前年はほとんどなかった入学、卒業、新生活に向けた需要が出てきている分、回復基調にある。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年は緊急事態宣言によりフレッシュアズ、卒業式、入学式等のイベントが中止になったが、本年はおおむね開催されることで、スーツ需要が回復している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売量が増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年末から販売量は決算期まで増加傾向にある。新型車の発表発売も控えているので既存の車種と併せ提案し、新型車以外での契約もあり、微増だが販売台数は伸びてきている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・特注家具なので受注生産であり、受注量の中身が増えたことにより、商品点数もおおのずと増えている。
	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者が増加しているにもかかわらず、今月はお彼岸もあり、線香等の小物や仏具の売行きが順調で売上を押し上げている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・首都圏の緊急事態宣言が解除され、徐々に来客数が増えている。近場の温泉の申込みが多く、ゴールデンウィーク期間も動き出している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月半ばに100人を超える感染者数の発表が出てから、タクシーの利用者は極めて少ない状況である。しかしながら、なじみ客の買物の状況を鑑みると、今までにない高価な買物をしている。よってコロナ禍においても少しずつ上向きに変化していると推察する。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3か月前よりも今月の方が前年同月比が良くなっている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・春休みに入り首都圏に出されていた緊急事態宣言も解除になり、徐々に来客数が増えてきている。しかし、いわゆる観光土産などは自家需要商品になっていてまだまだ厳しい状況であり、取引先が生産したがない物もあってバランスが難しい。景気が良くなっているというより、家にいるのがつらくなってきたといった印象を受ける。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数は緊急事態宣言明けを見込んだ予約も少しずつ入っているため、3か月前よりも1年前よりもやや良くなっている。ただ、通常時と比べると景気は悪いと言わざるを得ない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・中小企業等事業再構築促進事業や新型コロナウイルス感染症特別貸付などを活用した事業を検討したい旨の問合せが出てきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍の下、先行きが見えないなりに、閉店する店、事業拡大する店と対応の格差が出ている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・来客数の落ち込みは著しいが客単価が上がっており、売上は3か月前比で横ばいである。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・今月も商品の動きは良くない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年と比べて回復傾向にあるものの、生活様式の変化や移動の自粛、消費マインド停滞は続いており、景気にも変化は見られていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が常態化しているため、余り前と変わらない。通常、年度末は建設関係などが動くはずだが、それほど動いていないようである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数前年比が、90%前半まで落ち込んでいる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・雪は解けたが来客数が戻らない。今月も除雪代の支払があるので厳しい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、現在も週末の来客数が減少傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上高は回復傾向にあり、前年並みまで戻しているが、一昨年比では95%と落ち込んでいる状況である。特に来客数の落ち込みが大きい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候に左右される時期である。週末の悪化が続き来客数に影響が出ている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・朝から夕方に掛けては大分客足が戻ってきている。しかし、新型コロナウイルスの感染者が多く、当地で緊急事態宣言が出されていることもあり、21時くらいから朝方に掛けては人が出てこない。良くない状態が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・依然として新型コロナウイルス感染は収束しておらず、客足が減少している。法人関係も買い控えをしており、売上が2割減少している。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・コロナ禍の影響で景気が悪かった前年との比較では100%を超えたが、一昨年の3月の70%であり、まだまだ景気は改善されていない。来客数は前年よりもアップしているが、客単価及び買上点数は下がっている状況である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算期だが、なかなか個人客の販売量が増えない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・本来、3月は決算期で客の来場は多いのだが、以前ほどではない。新型コロナウイルスへの対応をした上でイベントを行っているが、来場者数は余り伸びていない。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・店頭販売が非常に悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除となったが、移動需要の拡大による販売量の増加は見られない。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・当市で発出された緊急事態宣言の影響があり、来客数が伸びない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・前月と代わり映えしない状況である。首都圏の緊急事態宣言が解除され、飲食業界は多少上向いているが、観光業は下降気味である。新型コロナウイルスの影響で外国人の入国が制限されているため、留学生の入国がなく教育産業も低迷している状況である。
		通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・客の設備投資意欲に変化は見られない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・新生活の準備の時期であるが、引っ越しなどの動きがそれほど多くみられない。このため、転入転出による加入解約にも大きな動きがなく、新生活応援キャンペーンなどによる新規加入者の増加も余りみられない。
		観光名所 (職員)	お客様の様子	・寒さも緩み、子供連れの家族や若者のグループの来場が目立つようになってきている。ただ近場の来場のため売上にはなかなか結び付かない状態である。
		競艇場 (職員)	来客数の動き	・前年の6月から営業を再開し、3か月くらいは好調が続いたが、急に客足が悪くなり売上が一気に落ち込んだ。その後広告や宣伝ができない日が続き、客足が戻らないまま今に至っている。
		その他サービス [自動車整備業] (経営者)	来客数の動き	・1月からの緊急事態宣言下での最悪の状態は脱したが、他県で新型コロナウイルスの感染が急拡大した地域があったことにより、地元客の来店が再び激減している。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・オープン形式での展示場営業が完全予約制になり、集客人数の減少と客との打合せに時間を要し、契約までの時間が掛かっている。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響がまだまだなくなっていない。せっかく調子が上向きになってきた段階で再び感染者が出たために、なお一層落ち込んでいる状況である。
		一般小売店 [書籍] (経営者)	販売量の動き	・年末年始まではコミックが全体の販売量を押し上げていたが、現在は一段落している。また、新学期関連の動きが鈍い。巣籠り状態で外出自粛の傾向があること等で、少し景気が下向きになっている。
		一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・今月上旬は新規感染者数も落ち着いていて、販売量も若干上向き傾向にあったが、中旬以降は感染者の急激な増加に加えて大きな地震もあり、一気に人も物も動かなくなった。ようやく暖かくなり、人の動きが始めていたのに、またマイナスに戻った感じが否めない。
		百貨店 (経営者)	来客数の動き	・月半ばまでは春のギフト商品など順調に推移していたものの、県独自の緊急事態宣言発出後は来客数も激減し厳しい状況が続いている。1年前と同様食品を中心とした近場消費へ移行している。
		スーパー (経営者)	単価の動き	・3月の1品単価前年比は103%である。来客数の減少に併せて買上点数も減っている。前年度のような保存食需要、内食需要の増加や5%還元といった追い風もないためか、売上の前年比は厳しい。消費傾向は余り良くない推移となっている。
		スーパー (経営者)	来客数の動き	・スーパー、ドラッグ、ホームセンター等は、前年のコロナ禍において少なからず恩恵を享受したが、来客数は減少したまま回復していない。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・年末年始の販売状況と比較すると、客単価が低下傾向にある。来客数も当地における最近の新型コロナウイルス感染者の増加に応じて、減少傾向にある。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・依然として売上の伸びはあるが、2月の売上は前年比106%、そして今月は前年比105.3%と若干伸びが少なくなってきた。新型コロナウイルスの影響が出て1年たったせいかもしれない。
		スーパー (営業担当)	来客数の動き	・来客数が前年比94.1%まで落ち込み、来店頻度、買上点数が悪化している。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業担当）	お客様の様子	・前年同様まとめ買い傾向が見られ、客単価は上がっているが、買上頻度は確実に減少傾向にあり、生活防衛意識も高まって見える。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月は暖かかったので、暖房商品の売行きが良くなかったが、テレビなど映像商品、白物家電のなかでも冷蔵庫や洗濯機は前年をやや上回る売上になっている。ただ、全体的には前年をやや下回る実績となっている。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・3月はシングル向け商品が売れるが、販売量が少ない。来客数も少ない。新型コロナウイルスの影響ももちろんあるが、金の使い方が内向きな消費需要から、旅行など外向きな需要に変わっているのではないが。
		乗用車販売店（本部）	お客様の様子	・直近の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、新中販売のみならず、ある程度維持できていたサービス入庫での来場も減ってきている。市中リスクを声にする客が多い。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・通常であれば異動シーズンで飲食関連の動きがあるが、前年同様全く動かない状況である。前年比では同じ水準だが、先行きは芳しくない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・3月に入り県内の感染が拡大傾向にある。客足はそれほど落ちていないものの、消費マインドがかなり後ろ向きになっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチの売上は2019年と比較し8割ほどだが、ディナーの売上は4割で推移している。ビジネス利用はほとんどゼロである。家族や友人同士の会食のみである。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・客足が戻りつつあると思われた矢先の県の緊急事態宣言で、再度客足が遠のく。新型コロナウイルスに振り回されて先が読めない。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されたのは一部の地域であり、東北地区や県内ではさほどリスクは高くないとみられるが、それにもかかわらず予約数は伸び悩んでいる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売状況からも旅行需要回復の兆しは見えない状況である。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・飲食業を始め小売業、宿泊施設の来客数が落ち込み、売上も激減している。このまま継続すれば廃業に追い込まれる状況である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・県内の新型コロナウイルス感染者数激増に伴い、商談が停滞している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・県の緊急事態宣言が発出され、営業しにくくなっている。
		美容室（経営者）	単価の動き	・感染対策として緊急事態宣言中は顔そり等を自粛しているため、単価が下がっている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・リフォーム工事は、外壁塗装、増改築などの高額の仕事が減っている。住宅設備機器販売は、暖房器具の販売や交換工事受注の伸びが落ち着いている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・積雪などの天候状況も極端に悪くはなかったが、来場者数が前年比80%で推移している。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染者の増加が極端になってきて、かなり市中が沈静してしまっている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・年末からの時短要請が解除され3月は良くなるかと思いつつも、再び感染者が多くなり、独自の緊急事態宣言が発出された。3月25日から夜9時までの時短要請が出ている。緊急事態宣言が解除になるまでは繁華街には来ないという固定客が非常に多く、来客数が減少してしまっている。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ガソリン価格や電気料金が上がるなか、新型コロナウイルスの影響を受け始めてから1年がたち、スーパーでの価格が各社ともデフレ価格の状況を示している。その競争に巻き込まれている。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・宮城県の緊急事態宣言で、東北全体の人の動きが非常に悪くなっている。前年も新型コロナウイルスの影響で売上が低迷したが、今年は更に落ち込みが厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	自動車備品販売店（経営者）	それ以外	・当県は感染者が少ないが、コロナ禍の自粛ムードで送迎会、謝恩会などが行われないため、飲食店などはもう限界の様子である。
	×	その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・例年3月は繁忙期で、売上の的には年間で一番上がる月なのだが、観光業、飲食店関連の客の注文はほぼゼロである。また、一般企業でも新入社員採用が極端に少ないなど制服関係の売上はかなりダウンしている。2月までは何とかやり繰りしていたが3月に入り極端に差が出てきた。
	×	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのために、次々とキャンセルになっている。特に大人数の会はほとんど開催キャンセルになっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月に入り、新型コロナウイルスの影響が顕著になってきている。1日の来客数が0～4名の日が続いており、壊滅的な状況が続いている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が大きい。25日からは営業時間短縮の要請もあり、来客数がゼロに近い状態が続いている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・時短要請が出る前もそうだったが、出てからは特に人が来なくなった。客からも、やはり21時に退出となれば慌ただしくて、飲んだ気にもごはんを食べた気にもならないという声が多く聞かれるので、それならば足が遠のくのも仕方ない。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染者が少なくなったと思いき、仕事若しくはレジャーで他のエリアから往来し、それが原因で県内でのクラスターが発生している。それに伴い、少し活気が戻ってきた飲食店も再びどん底に落ちている。いい加減、目先の景気回復を考えないで、3か月くらい全国で往来をやめないと何も変わらない気がする。
	×	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が落ち着くどころか第4波の声も聞かれ、いまだに自粛気味である。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・県の緊急事態宣言により、人の動きが更になくなり、旅行業界としてはなす術がない。
	×	タクシー運転手	競争相手の様子	・非常に客が少ない状態になっており、同業他社でも廃業したところがある。
	×	遊園地（経営者）	来客数の動き	・春休みになると同時に県独自の緊急事態宣言が出され、大きく影響が出ている。感染初期だった前年3月より厳しい状況になっている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・今月の初めくらいまでは前年をクリアする日もあったが、当地での緊急事態宣言発出とともに来客数が少なくなっている。前年のこの時期も新型コロナウイルスの影響で来客数が少なかったが、前年の悪い数字から更に10%くらい減少している。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・複数の民間大型案件の受注に至っている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月前半は人の動きもあり、売上也前年近くまで回復していた。しかし、県内で新型コロナウイルス感染者数が増え、緊急事態宣言が発出され売上がダウンしている。しばらく回復は見込めない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピックの開催など不安要素はありつつも、少しずつ受注量が増えている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・1都3県の緊急事態宣言解除に伴い、取引先とも徐々に活発な取引を期待している。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・個人消費関連では、宿泊業や夜間営業飲食業の苦戦は継続しているが、住宅販売、自動車販売は業況回復基調にある。新型コロナウイルス対応の民間設備投資の動きも見られる。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・イベントなどの実施が増え、受注増となってきている。
		農林水産業（従業員）	それ以外	・農作業が段々と忙しくなってきたが、各農家における農機具の購入は例年よりも少ないようである。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・厳しい状況は変わらず、販売量の前年割れが続いている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3月に入り人の動きは出始めているものの、土産品の購入は少なく、ギフト等の発送が多い。飲食は来客数が少なく売上也前年を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	取引先の様子	・売上の減少傾向に歯止めが掛かっていない。しかしながら、取引先の事業活動が少しずつ再開され、受注に結び付きそうな相談も発生してきている。
		電気機械器具製 造業（企画担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・前月から引き続き、電子部品、主に半導体部品の受注価格が高値を維持している。
		建設業（企画担 当）	受注量や販売量 の動き	・官庁工事は順調な出件とみられるが、民間の設備投資が回復してこない影響が大きい。
		輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・例年の3月とは違い景況感は良くない。前月同様、海上コンテナ不足が解決に至っておらず、輸出・輸入関連貨物の動きが上向いてこない。3月の売上は前年比で15%減、一昨年比で20%減であり、依然として厳しい状況が続いている。
		通信業（営業担 当）	取引先の様子	・これまで耐えてきたかいがあったと感ぜられる客の反応が、少しずつであるが見えてきた。
		金融業（営業担 当）	取引先の様子	・緊急事態宣言解除後も自粛ムードは続いている。飲食業、宿泊業は依然厳しい状況が続いている。
		広告業協会（役 員）	受注量や販売量 の動き	・首都圏からの広告出稿は少し戻りつつあるが、今月の感染者急拡大により、地元企業は様子見状態が続 き、広告業界は低水準で推移している。
		広告代理店（経 営者）	取引先の様子	・来年度の予算は更に厳しい状況になっている。
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。小売、サー ビス、飲食関係の売上は前年比で減少が続いており、 厳しい経営状況が続いている。建設、一部巣籠り需要 の小売は、前年との比較ではさほど悪い業績ではな い。全体としてはやや悪い景気だと判断される。
		その他非製造業 [ 飲食料品卸売 業 ]（経営者）	受注量や販売量 の動き	・首都圏の緊急事態宣言解除で首都圏の飲食店向けの 荷動きは幾分出てきたが、県内については緊急事態宣 言によってブレーキが掛かっている。全体的にみると 首都圏の緊急事態宣言時よりはいいが、県の緊急事態 宣言発出前の状況に戻りつつある。
		その他企業[ 企 画業 ]（経営 者）	それ以外	・近くの地場産品の店や道の駅への来客が遠のいてい る。少し前までは終日にぎわいを見せていたが、現在 はかなり少ない。
		農林水産業（従 業者）	受注価格や販売 価格の動き	・転作作物の玄そばの販売価格が、これまでに例がな いほど下落している。
		経営コンサルタ ント	それ以外	・当県は新型コロナウイルス感染の急速な拡大によ り、消費活動にブレーキが掛かっている。
		コピーサービ ス業（従業員）	受注量や販売量 の動き	・今月に入り県内の新型コロナウイルス感染者の増加 が見られ、営業活動に制限が掛かってきている。直接 会わなくても商談できるツールなどを駆使している が、もどかしさを感じる場面も多々ある。いろいろな 助成金や補助金などを利用しての提案活動をしてい るが、こちらも受注につながっていない。
		その他非製造業 [ 飲食料品卸売 業 ]（経営者）	受注量や販売量 の動き	・最近、当県の新型コロナウイルスの感染状況が非常 に悪い。商売にも影響が出ており、販売が慎重になっ ているような状況である。今の状況は以前と比べて多 少悪い。
	x	窯業・土石製品 製造業（役員）	受注量や販売量 の動き	・官民工事の減少により出荷は低迷している。地震の 連続発生と当県の新型コロナウイルス感染の急拡大に より、地域経済に明るさがみえない。
雇用 関連 (東北)		-	-	-
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・2月の震災需要は一段落した。大手3社から各派遣 会社へ100名の受注があったが、当社は20名ほど稼働 した。それに加えて、年度末需要も前年並みに堅調に 推移しやや良くなっている印象を受ける。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・求人数は堅調に推移している。
		新聞社[ 求人広 告 ]（担当者）	それ以外	・飲食店の客入りが明らかに上向いている印象を受け る。昼間の来客数だけでなく少人数での夜の会合が明 らかに増えている。旧来の歓送迎会などの大規模宴会 はほとんど見受けられないが、密を避けた4人程度の 飲食が多くなり、店によっては入店をお断りする状況 である。当然店舗は席数を減らして密を避けている が、明らかに人の動きが増加している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で減少が続いていたが、19 か月ぶりに僅かではあるものの増加に転じる見込みで ある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3月中旬までは県全体で求人の声掛けが多かったが、緊急事態宣言発出後はまた求人控える、様子を見る、新しい増員をしないという企業が多数ある。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・補充中心の採用が多く見受けられる。増員の依頼は特定業界のみのため、現状では大きな変化は見られない。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染急拡大により、様子見の状況にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・3月の求人数は前年度をやや上回るペースであったが、前年は3月から数字が落ち始めたので、回復傾向とはいえない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出ている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・大型建設工事により、宿泊業や飲食業への新型コロナウイルスの影響は最小限に抑えられているが、製造業などで雇用調整の動きが継続している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に3か月前と比較してほぼ同数である。
		学校〔専門学校〕	それ以外	・コロナ禍において、景況感は悪いまま変わらない。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・年度末なのに例年より仕事が少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整助成金など新規で手続を行う事業所が増えている。
	×	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・政府の対策含め、東京オリンピックに全ての照準が定まっており、明らかに世論との温度感に相違がある。このような状況下では景気回復は難しい。

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北関東)		家電量販店（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、巣籠り需要が継続しており、今月も前年比で2けた伸びている。特に、パソコン、冷蔵庫、洗濯機、エアコンが好調に推移している。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、3月に入ってから多少は良くなった感じである。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・婦人、紳士、子供等の衣料品部門は、引き続き低調である。店全体では、食品とリビング部門が上向いてけん引し、やや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・1月の緊急事態宣言時と現在を比べてみると、新型コロナウイルス疲れなのか分からないが、若年層の客が増えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあると思うが、今月に入って3週間ぐらいは3か月前より客の動きが良くなっている。コンビニでは、おにぎり等の商材は人の動きに敏感に動く。前週、前々週、土日の朝の動きは悪かったが、この3週間、朝のおにぎり等の動きは平年並みに戻ってきている。人の動きが活発化することで、景気も上向きになりつつある。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上92%、来客数88%、客単価104%で推移している。1日当たりのマイナスは4万円と、1～2月と比べて、マイナス幅が縮小している。特に、夜の客の戻りが顕著である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・東京オリンピックの動向によって、大きく変化する。今後の動きに期待している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車販売が過去3番目ぐらいの好調である。サービス部門の修理も好調に入ってきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・1人1000円以上で500円引きという市独自の飲食店応援キャンペーンが始まり、客が殺到している。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・少人数だが、宴会や飲み会が増えている。数日先の予約問合せも増加傾向である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・自粛要請が明け、来客数が少し増えている。しかし、報道等にもあるように、客は、まだ外で飲食することに自粛ムードで、余り変わらないようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・宿泊は徐々にではあるが、団体予約等も入ってきている。料飲部門は、ディナータイムの集客は見込めず、相変わらず厳しい状況が続いているものの、ランチタイムは戻ってきている実感がある。
		旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・県独自の宿泊割引キャンペーンの開始により、来店者数ゼロの状況は回避されるようになってきている。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・暖かくなって、緊急事態宣言も解除されたため、消費はやや良くなっている印象である。
		通信会社(総務担当)	販売量の動き	・3月が販売のピークのため、3か月前よりは増えている。ただし、前年同月比では減少している。
		設計事務所(所長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染に注意しながら、経済活動が動き出しているように感じる。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・卒園、卒業式の訪問撮影数に変化はないが、来店での撮影数は激減している。
		一般小売店[精肉](経営者)	お客様の様子	・天候が良くなり、花も満開になってきている。浮かれて段々人が出てきているが、なかなか景気の高揚にはつながらない。東京オリンピックの聖火リレーも始まったが、見るだけで精一杯である。
		一般小売店[土産](経営者)	販売量の動き	・3か月前の12月を前年売上と比較すると達成率は40%台であった。今月は、前年は既に新型コロナウイルス禍で、一昨年は改装工事で半月しか営業していないため、前々年度と比較したが、同様に売上達成率は40%台である。1都3県の緊急事態宣言が3月21日をもって解除されたが、人出はその前週から徐々に増えてきている。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・前年は既に新型コロナウイルスの影響下にあったこともあり、前年実績の確保はできている。食品関連の大型物産展等、来客数、売上共に非常に好調な部分もあるが、依然としてアパレルの不振は継続しており、厳しい状況に変わりはない。
		家電量販店(営業担当)	お客様の様子	・営業に制限があるなか、最低限の設備投資をしている状況である。補助金等を活用している。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・新車、中古車の販売が、粗利益は別としても前月並みを維持している。また、整備売上も前月より15%ほど伸びており、全体では微増である。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・売上が全く悪いわけではないが、例年3月のような勢いはない。1～2月がそこそこ良かったものの、3月初め辺りから、ムードが少し静まり始めている。
		その他専門店[靴小売業](経営者)	来客数の動き	・前年3月頃から新型コロナウイルスの影響を受け始め、売上が半分になった月との比較では、今月は5%ほど増加しているものの、比較にならない。客は買物に向いておらず、いまだに経済も上向きになっていない。
		一般レストラン(経営者)	競争相手の様子	・同業者と話しても、皆、不安や不満ばかりで、良くなったというような明るい話題はない。
		その他飲食[給食・レストラン](総務)	販売量の動き	・レストラン部門は、テイクアウトや配送等の取組はしているものの、外出自粛の意識が重しとなって、来客数に戻りがみられない。事業所給食は、出張や研修の自粛、リモート活用等が定着してきており、施設単位で見ると、提供食数がやや減少した状況が続いている。
		都市型ホテル(支配人)	来客数の動き	・歓送迎会や謝恩会のシーズンだが、忘新年会に続き、大人数での会食は自粛のため、皆無である。個人利用は少しずつ動き始めているものの、全体としてはいまだ厳しい。
		通信会社(局長)	競争相手の様子	・携帯電話の新料金プラン登場によって、固定回線の競争も激化していく。
		競輪場(職員)	お客様の様子	・入場者数、購買単価共に、ほぼ変化がみられない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・原油価格の上昇が製品価格に転嫁されれば、金利は上がり、景気低迷するコストプッシュ型インフレが懸念される。
		その他サービス[自動車整備業](経営者)	来客数の動き	・車体整備、ばん金塗装の受注が激減しており、前年比50%を切っている。
		設計事務所(所長)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、人の動きはまだ鈍く、景気回復とはいえない状況である。建設は、公共事業の受注で売上を維持している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ここに来て、アパートの動きが天分目立ってきている。転勤等の時期なので、仕方がない。また、店舗は、飲食店関係の引き合いは全くないが、物販店の会場については、ちらほら引き合いが増えている。
		スーパー（商品部担当）	お客様の様子	・売上は、前年比だと新型コロナウイルス禍による特需が始まった時期になるので、一昨年と比較すると102%である。地域支援事業のサービスが前月までで終了したと同時に、買上単価が下がり、価格を重視する客が多く見受けられる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で外出機会が減り、いわゆる「お出かけ着」の購入が減っている。
		住関連専門店（仕入担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス禍による消費への影響から、丸1年経過し、前年度の特需で前年比が大きくマイナスとなっているカテゴリーと好調が継続しているカテゴリーが相殺し合い、ややマイナスの側面が多く出始めている。特に、消耗品を中心に、価格訴求の傾向が強まり、単価の下落につながっている。
		その他専門店【燃料】（従業員）	販売量の動き	・毎月、業務用の使用量が大きく減少している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・従来の案件がほとんど出てこない。やや悪い状況だが、若干はバス旅行の動きが回復傾向である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後も、大きく変化はしていない。巣籠り需要効果はあるが、通常の消費はまだこれからである。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・問合せはあるものの、取引の動きは鈍い。成約に至る物は少ない。
	×	一般小売店【家電】（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で影響を受けている業種は、かなりたくさんある。飲食業だけではないのに、余りにも不公平過ぎる。このままでは、飲食店以外で倒産する会社が出てくる。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が解除されても、やはり、リバウンドを警戒する客が多く、来客数が増えてこない。
	×	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・当店の顧客は高齢者が多いこともあり、新型コロナウイルスの影響下で、ほとんど街に出てきていない。緊急事態宣言解除後も同じような状況で、来客数の動きが本当に悪く、日に日に悪くなっていく実感がある。このままでは店の存続もかなり厳しい。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・飲食店を中心に、時短営業で店舗を閉める比率が高くなっている。廃業もやむを得ないひっ迫した状態である。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる不景気からの復活が全く見えない。既に1年以上、耐えに耐えて、もう限界を超えた限界であり、地獄の毎日である。
	×	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・地域の新型コロナウイルス感染状況は落ち着いているものの、首都圏の感染状況には収束がみられず、逆に増加傾向になっており、厳しい状態が続いている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・県外から人が来ないと仕事がない。緊急事態宣言が解除されても、街なかではひっそりとしている。タクシーの利用客は、非常に少ない。
	×	タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も人の動きが悪く、前年同月と比べて20%の減少である。
	×	タクシー（役員）	それ以外	・国の新型コロナウイルス対策は、度が過ぎるほど、いい加減で、どうしようもない。今後、税金は一切払いたくない。
	×	通信会社（経営者）	販売量の動き	・地方での新型コロナウイルスの影響は鎮静化せず、いまだに当社顧客である飲食業や小売業等の動きは皆無である。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・年末からの新型コロナウイルスの感染拡大第3波による緊急事態宣言発出の影響から、来客数が大幅に減少し、Go Toキャンペーンの効果が全て帳消しになっている。
企業動向関連		-	-	-
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・3月末の受注は2月末の3割増となっている。ただし、3月は月内注文が多かったため、4月も同様かは分からない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(北関東)		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・取引先の様子や受注量等が5割減くらいだったのが、最近では3~4割減ほどまで徐々に回復してきている。
		建設業(開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。前与党政権誕生後、公共工事は順調に推移し、現政権でも順調に推移している。今期の公共工事は前年比14.8%増と順調で、当社も前期比10%増の受注がある。特に、県関係が前年比37.3%増だが、これは令和元年初に発生した大雨による災害復旧工事に起因している。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・ここ1~2か月は少し良い状態が続いているが、それほど良いわけではない。当地域でもう3か月ほど新型コロナウイルスの感染者が1人も出ていないという点も、良い方に作用しているのではないかと。
		社会保険労務士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響を大きく受けていた業界も、多少良くなってきている。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・年度末の需要増を期待していたが、低調に推移しているものの、落ち込むほどでもなく、変わらない。
		窯業・土石製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・ここ2~3か月は、前年と比べて上向きである。
		一般機械器具製造業(経営者)	それ以外	・非常に好調な会社、休業日を増やしてはまだ稼働を落としている会社、半導体不足による自動車生産ライン調整に合わせ休業する会社等、地元でも企業によって状況はまちまちである。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・売上が前年同月比6~7割と落ち込んだまま、ずっと推移しており、今のところ回復は見通せない。非常に厳しい状況が続いている。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響は、現在も続いている。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・今月は大きな地震があり、防災バッグなどの輸送が増えたり、巣籠り需要による園芸用品、バーベキュー用品、調理家電等の物量が、前年の10%増となっている。
		不動産業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で中止になっていた管理、清掃業務が再開し、売上が回復している。一方、一部の取引先において、年度途中で管理業務が減少している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除後ではあるものの、連日のマスク報道等の影響もあり、個人の外出や外での購買行動等に慎重さが残っている。そのため、消費行動にはなかなか結び付かず、一部商業施設等では人の動きはあるものの、本格回復には程遠い。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	受注量や販売量の動き	・特段の変化はみられない。新型コロナウイルス禍でも、客の情報化への投資意欲を感じている。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・世界的な半導体不足による減産で、やや悪くなっている。
		広告代理店(営業担当)	競争相手の様子	・タウン誌などを発行している同業他社の話では、「特に、飲食業界の広告出稿が激減しており、厳しい売上での発行となっている。最近では退職者も増えて、状況は悪化の一途をたどっている」とのことである。
	x	-	-	-
雇用関連				
(北関東)		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・温暖化の影響なのか、比較的温暖な日々が続いている。卒業シーズンであり、春物商材や学校関係では、春休みに入ってから進学予備校等に関する教職員、生徒の募集等が目立っている。また、住宅関連等は着工の遅れの影響は余りなく、順調に増改築等が伸びてきている。
		人材派遣会社(経営者)	求職者数の動き	・現状、求人依頼が多く、紹介できる人が少し足りないくらいである。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・例年の同時期と比較すると求人数は減っているものの、直近では増加傾向にある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・建設業の求人が増加しており、特に、公共事業や住宅関連が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (管理担当)	採用者数の動き	・派遣先企業の採用は、厳しい状況が継続している。短期派遣は少し良くなったものの、長期派遣は厳しいままである。短期、長期を平均すると変わらない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・前月の有効求人倍率は1.29倍と前々月と比べ0.03ポイント上回ったが、前年同月比はマイナス0.20ポイントと13か月連続で下回っている。有効求人数は、前年同月比マイナス11.7%と20か月連続で減少している。新規求人数は、前年同月比7.4%増と1年4か月ぶりに前年を上回っている。産業別でみると、建設業が前年同月比76.1%増となっている。
		学校[専門学校] (副校長)	周辺企業の様子	・取引先企業は新型コロナウイルスの影響でいまだに悪いということだが、給付金が出て、以前よりは取引ができるようになってきているようである。
		*	*	*
	x	*	*	*

#### 4. 南関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- :回答が存在しない、\* :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (南関東)		一般小売店[生花] (店員)	来客数の動き	・毎年のことだが、3月はお彼岸、卒業式シーズンで、花屋にとっては稼ぎ時である。そのため、どんなに状況が悪い時でもそれなりに良くなっている(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除前後から来客数が伸長している。3月後半には、食品領域で土産や花見需要が高まっている。インテリア領域は引き続き好調である(東京都)。
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・最需要月、決算月であり、新車、サービス共に好調である。また、中古市場の需要が大きく伸び、売上に貢献している。
		その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	販売量の動き	・業種間でのばらつきはあるものの、飲食店も以前の状態よりは回復している。ただし、新型コロナウイルス以前の状態にはまだまだ戻らない。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・前年比では220%だが、一昨年の2019年度3月比で見ると80%を切っている。2019年度と比べれば厳しいが、前年、3か月前と比べると良くなっている(東京都)。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・地域の工場群が定期修理の時期になってきたので、販売量が増えてきている。
		商店街(代表者)	それ以外	・気候が暖かくなってきてからは、緊急事態宣言中にもかかわらず、若い世代を中心に人が多く出てきている。人出と比例してクレジットカードの取扱高も戻りつつある。飲食業、特に夜の店はひどい状態が続いているが、昼間のカフェやスイーツ店は随分回復しているようである(東京都)。
		一般小売店[和菓子] (経営者)	それ以外	・前年度は新型コロナウイルスの影響で卒業式や入学式などの行事に伴う注文が全てキャンセルになってしまったが、今年は新型コロナウイルス禍のなかでも少しずつ注文が戻ってきている。
		一般小売店[家電] (経理担当)	販売量の動き	・年度末や、人の動きの多さなどから、商材はそれなりに動いている。大々的なキャンペーンはできないが、対策がついているので、紹介して買ってもらっている。
		一般小売店[祭用品] (経営者)	来客数の動き	・若干動き出していることと、年度末で需要が出てきたようである。
		一般小売店[文具] (販売企画担当)	お客様の様子	・外商は官公庁と民間があり、官公庁は元々伸びていたが、民間は3月は物件等が余りない様子で危惧していたところ、ここへきて、大きくはないものの少しずつ投資案件が出てきている。民間の大手企業に関してはその分若干良くなっていると感じる。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、3月中旬くらいから来客数が緩やかに増えている。また、高額品を中心に消費は順調である(東京都)。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言中ではあるが、売上高は既存ベースでプラスとなっている。インターネット販売が好調に推移しており、店頭販売も客単価が上昇、3月中旬以降は来客数も増えている（東京都）。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・長引く新型コロナウイルス禍で、旅行や飲食を楽しめない状況が続き、高額品を購入したいという機運が高まっている。そうしたなか、3月の商売は、前年には届かないものの、やや好転しつつある（東京都）。
		百貨店（副店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスワクチンの接種開始と緊急事態宣言の解除により、客の消費マインドが高まってきている。直近1年間は、食品、家庭文化といったイエナカ商材だけが健闘していたが、気温の上昇もあり、アパレルにも客の目が向きつつある（東京都）。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・回復基調にはあるが、新型コロナウイルスの感染拡大状況次第であり、予断を許さない。
		百貨店（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除され、販売量がやや増加している。しかし、免税販売量は依然として低位である（東京都）。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除になり、出掛けたいという声をよく聞く。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当社はコンビニエンスストアを何店舗か経営しているが、緊急事態宣言が解除されたこともあり、特にショッピングセンター内の店舗で少しずつ来客数が伸びてきている。そのため、少しずつ景気が良くなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除以降、夕方～夜間の販売量が伸びている。前年比でも同程度の数字になってきている（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	単価の動き	・3月に入り、緊急事態宣言が解除されたこともあり、前年の新型コロナウイルスの影響下との比較では、改善度合いが明確に表れている。商材の回転率も大きく向上している（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・当店の扱っている商材のうち、来月に品切れとなる商材がある。今月は、その商材のまとめ買いで急にたくさん売れたので、販売量が少し増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・相変わらずケータリングは全くなく、売上は総体的には減っているが、ケータリングがなく店舗のみの前年売上と比べると少し回復している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・時短要請が夜8時から9時までに変わったことで、客足が微妙に伸びている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の12月1～24日までの前年比は、売上64.7%、来客数59.8%である。今月3月1～30日までの前年比は、売上68.3%、来客数66.2%である（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから5～6名での飲み会の予約がちらほら入るようになってきている。ただし、よくしゃべっている客を見ていると、また新型コロナウイルスの感染者数が増えるのではないかと心配もある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、気候も暖かくなり、人の動きが活発になり、繁華街の人の流れも多くなってきている。当社は外食チェーンで繁華街への出店が多く、また、定食を提供する食事形態のため、営業時間の短縮はあっても、夜の来客数は伸びている（東京都）。
		その他飲食 [給食・レストラン]（役員）	販売量の動き	・社員食堂の喫食数が徐々に戻ってきている。1月は緊急事態宣言の影響を受けたが、2～3月に掛けて戻り始め、売上もそれに伴って上昇傾向にある（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、確実に多くの客がホテルに来てくれている。また、前年と比較すると稼働率は30%ほど上がっており、単価も徐々に戻ってきている（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・大学で来年度の講座の動きが出ており、注文につながりそうである。活動が増えてきている（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除に伴い、案件数がやや増加している傾向が見える（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・企業向けの電話機、パソコンなどの情報インフラは、新入社員受入れ準備もあり、増設や設備の買換え需要が高くなっている。しかし、例年に比べると規模は縮小傾向にある（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が終わり、少し状況が落ち着いてきた気がする。
		その他レジャー施設〔総合〕（広報担当）	来客数の動き	・3月中旬から来場者数が増えてきている（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3月で年度末ということもあり、3か月前よりは景気が良くなっている。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・建築資材の需要はやや戻ってきているが、例年並みまでは届いていない。メーカー側もフル稼働には至っていない（東京都）。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の所得が不安定になっているか縮小しているようで、消費に対して最近是非常に慎重になっている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言により年末～2月に掛けて人の動きが止まっていたが、3月になって人出が増加し始めている。そのため、個人消費は若干回復してきているが、飲食店を中心とした業務需要の回復がまだまだなので、売上の回復に向けた大きな変化はない（東京都）。
		一般小売店〔傘〕（店長）	来客数の動き	・来客数は若干増えている感じがするが、好転しているとは言い切れない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・売上、来客数共に前年比15%の減少となっている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言中で売上が伸びず、注文も減り、仕事にならない。イベントも客が少なくて売れない（東京都）。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・緊急事態宣言中にもかかわらず、3月は来客数が多く、販売点数も前年を上回っている。一部ショップでは常に行列ができており、時短営業のなか、全体売上も前年をクリアしている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・株価の影響等もあり、一部高額品の動きがあったが、在宅ワークや外出自粛等の影響から衣料品等の動きが悪く、全体としては厳しい状況となっている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言は解除されているが、客の消費行動が慎重であることに変わりはない。新型コロナウイルスの影響が顕著になったのは前年3月からであり、前年比では回復しているように見える。しかし、過去のレベルには到底及ばず、景気が上向いているという実感は余りない（東京都）。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの収束が不透明なので、消費マインドが上がってこない。政府の経済対策がない限り、たとえ新型コロナウイルス収束の兆しが見えても、経済は回っていかないだろう（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍の前年と比較すると、既に来客数、売上共にプラスで推移してはいるが、前々年との比較では大幅なマイナスに変わりはなく、厳しい状況が続いている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・前年3月は既に新型コロナウイルスの影響により売上が落ち込んでいた時期であり、来客数は前年比マイナスとなっている。売上は前年比プラスではあるものの、新型コロナウイルスの影響がなかった前々年との比較では大きくマイナスである。緊急事態宣言の延長による営業時間短縮要請も影響している。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・周辺の競合店との価格競争があり、主力商品の平均単価が下がっていく傾向にある。客の買上点数は前年を上回っているが、平均単価が下がっている分、客1人当たりの買上額の合計がなかなか前年に達しない状況が続いている（東京都）。
		スーパー（店長）	それ以外	・緊急事態宣言の再発出及び解除にもかかわらず、客の買物動向に変化はない。特に、土日の総菜類の売行きが平日に比べて伸びている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数、買上点数は前年並みを維持しているものの、単価の上昇がみられない。より安価な物へと志向が傾いている様子である（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・3月の売上は、前年を約4%下回っているが、3か月前と比べるとほぼ横ばいである。ただし、前年は一昨年に対して売上を大きく落としている。インバウンドで売れていた物や衛生用品などは前年を大きく下回っているが、衣料品や食品などは前年を上回っている。落ち込みが大きいので、全体では約4%下回っているが、来客数は前年より若干伸びている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍での内食化傾向によって、来客数については横ばいながら、販売点数並びに買上単価が堅調に上向いてきており、2月末時点では、営業利益、経常利益共に予算を達成する見込みである（東京都）。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温は上昇してきたが、来客数が余り増加しない（東京都）。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・現状が日常化したのか、売上、来客数共に変化はないが、深夜の来客数はほぼゼロのまま推移している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言により夜の外出が減っており、来客数が低迷している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・やはり数量が減っている。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・今月は、前年比でみて一番来客数が戻ってきている。ただし、一昨年との比較ではまだまだ届いていない（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・マスク等の衛生商材の需要が収まり、外出もままならない状況で、外出着の売上も今一つである。
		衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・例年より暖かいが、緊急事態宣言の影響で来客数が少なく、春物衣料の出足が鈍い。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年の緊急事態宣言時と比べて来客数が少し落ち、その分単価を上げて売上をキープしている。今回の緊急事態宣言が解除されてから、新生活に伴う動きが出てきている。今後の動きに期待しているが、楽観視はできない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前年度の5割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売で受注が取れても、納車に時間が掛かってしまい、なかなか売上に反映されない。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、新車売上が相当落ちている。展示会や新車発表会など、イベントで集客できないので、新車の受注が落ちている。ただし、これは大衆車における話であり、高級車についてはそれほど大きな影響は受けていない（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	競争相手の様子	・競合相手を含め、業界全体に変化がみられない。
		乗用車販売店（店長代行）	販売量の動き	・前年の決算より来客数、販売数などが変わらないので、今後良くなるとは思えない。新型コロナウイルスが収束するまでは変わらない（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・リフォーム工事の引き合い、着工件数共に回復傾向にはあるものの、一昨年の水準には届いていない（東京都）。
		その他専門店【貴金属】（統括）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響でほぼ休業していた前年同時期と比較すると良くなっているが、販売量が減少した状態は依然として続いている（東京都）。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（団体役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除見込みから実施になっても、売上にはさほど変化はない（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・飲食店においては昼の需要はあるものの、夜の需要が全く改善されない。不動産賃貸においては統廃合でテナントの撤退が若干ある。
		高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後、客はランチタイムを中心に来店してくれている。法人関連の宴席は全く回復せず、家族や少人数での利用が中心である。令和元年度の3月と比較すると、売上は21.5%となっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍による時短営業等の影響もあり、来客数が少なく、大口利用もなく、景気は悪い状態が続いている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、3か月前と変わらず全然良くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・営業時間の短縮要請が20時から21時に変更になったとはいえ、東京都の自粛要請の状況は変わらず、客の外出や来店状況も変わらない（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言が延長となり、来客数が戻らず、一部のレストランは休業を余儀なくされ、販売量も落ち込んだまま、変わらない状況が続いている。ランチについては客が戻ってきて売上も立つようになっているが、夜の時短営業の影響で昼にシフトしているだけで、景気が良くなっているというわけではない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・引き続き実施案件がゼロのため、売上がない状況である。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、周りの状況は変わらない（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンが一時停止されてからずっと変わらない状況が続いている。教育旅行も、年度末が絡み低調に終わってしまった。国内旅行の販売量も同様に伸びていない（東京都）。
		タクシー運転手	それ以外	・緊急事態宣言が21日まで延長になり、タクシー業界は大打撃であった。頼みの駅待ちも最終電車が早くなり、午前0時を過ぎると極端に人がいなくなる。飲食関係の店も時短要請で営業しておらず、深夜はゴーストタウン状態である。景気は悪い状態が続いている（東京都）。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の動きが多少生まれているが、やはり夜の動きは変わらない。新型コロナウイルスの感染者数が極端に減らない限り、この動きは変わらないのではないかと（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客と話しても、現実には良いニュースはほとんどない。世界で新型コロナウイルスワクチンの接種が進んでおり、期待はしているが、はっきり言って現時点では悪い（東京都）。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客からの問合せが前年比で減少している。前月比では繁忙期による増加がみられるが、新型コロナウイルスの影響により当社側の対応が減少しているため、限定的で大きな変化はない（東京都）。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が延長されたため、景気が上向いていない（東京都）。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新規契約は増えているが、それを転出が上回っているため、純増には至っていない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言は解除されたものの、例年に比べて転居の動きが鈍くなっており、インターネットの切替え需要が落ちている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・テレワーク需要でWi-Fiサービスの問合せは多いが、インターネット回線乗換えなどの活気は余り感じられない。大学入学による新入居時の回線選択の特需も今年は余りない。地方から首都圏に出てくる学生が少ないようで、引っ越しによるシーズンの獲得増が見込めない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規、コース変更共に、必要最低限の内容を選択する意識は変わらない。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染再拡大の影響が残り、訪問営業機会の減少等から、新規契約獲得件数が伸び悩んでいる（東京都）。
		ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・3月は温暖な気候に恵まれた上に、新型コロナウイルス禍においてゴルフは感染を避けられるスポーツとして注目されつつあり、こうしたゴルファーの旺盛なプレー意欲に下支えされ、比較的高稼働で推移している。一方で、企業の名を冠したゴルフコンペや法人接待需要は皆無に近く、来場客の多くを会員メンバーが占めている上、緊急事態宣言中はレストランも制約があるなかでの運営となったため、収益性が著しく低下しており、利益が出せる状況ではない。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、依然として客足が悪い状況が続いている。街中の飲食店の営業時間は延びたものの、午後9時以降の人通りは相変わらず少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競輪場（職員）	それ以外	・施設の建て替えで発売を取りやめているため、景況は変わらない。桜が咲き始めて人の流れが多くなったと感じる。新型コロナウイルスの感染状況は、東京オリンピック終了後までは変わらないと考えると、まだまだ我慢の月日だと感じている。
		その他レジャー施設 [ ボウリング場 ]（支配人）	お客様の様子	・ファミリー層の来場や、夜間の来場客が少ない（東京都）。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が、客の来店頻度が鈍っている。
		その他サービス [ 保険代理店 ]（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍にもかかわらず、さほど購買意欲に影響はなく、購入金額の減少もない。新型コロナウイルスの影響は余り感じられない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・現在は、仕事量、内容共に変化はない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・前年から継続中の仕事が今月で終了となる。今年度中の景況感はほぼ横ばいが続いている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・景気という点においては変わらないが、コンサルタント的な話は何となく増えている感がある（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・大きな景気の変化はない。少ないものの、仕入れ、販売の契約も入っている。どちらかというと土地仕入は3か月前と比べても低い水準で推移しているので、今後も苦戦しそうな感じがする。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・2度目の緊急事態宣言期間中は、1度目と比べて展示場や現場見学会への来場者の減少幅が小さく、何とか必要なだけの受注量は確保できている。
		一般小売店 [ 家電 ]（経理担当）	来客数の動き	・今年に入ってから特に来客数が少なくなっている。一方で、出掛けられない分、店を回って商品を見ているだけの人も多くなっているように見受けられる。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・3か月前の12月は、日本人客の消費や来客数が大分回復基調にあった。その後、新型コロナウイルス感染第3波と緊急事態宣言の再発出を受けて、1月には来客数が大きく落ち込んだ。現在は底を脱しているものの、12月の水準まで戻ったとは言い難い（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の長期化に伴い、レストランを中心に冷え込みが続いている。また、長期化する新型コロナウイルス禍により、消費意欲が低下している（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、来客数は伸び悩んでおり、空き区画へのテナント誘致も厳しい状況にある。食料品については大きな変化はない。3月中旬頃から街への人出が増えたと感じているが、売上に直結する動きではない。一部高額品が動き始めているが、全体としてはインパクトが弱い（東京都）。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年3月は新型コロナウイルスの感染が広がり始めたばかりで、学校も休みになったりして大変な状況だったが、スーパー業界にとっては良かった。しかし、今年は感染状況もまだ落ち着いており、客も慣れてしまって巣籠り需要もそれほどなくなっているため、売上は大分厳しく、来客数も少なくなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・今までは、来客数が前年を割っていても、単価がある程度上振れしていたので、売上を確保できていたが、ここへきて単価が落ち込んでいる。来客数も当然前年を割っているため、売上が徐々に減少傾向にある（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・前年は緊急事態宣言が発出された月で巣籠り需要があったが、今回は効果が薄れてきているため、客数減が大きい。
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除に向かい、客単価が落ち着いてきて、解除後は、より通常に近く落ち着いている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあり、東京オリンピックも低調で、五里霧中の様相である。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が21日に解除されたものの、相変わらず晴れ着を扱う当社にとって追い風とはなっていない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・前年3月は新型コロナウイルスの影響で売上が前年比75.3%～93.3%の幅で推移したため、単月で見ると改善している。しかし、調理や白物家電以外は、減少傾向である（東京都）。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言中で販売活動の制限等もあるが、販売量や客の動向も減少傾向と感じる。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数も少なくなっているが、売上自体がかなり落ち込んでいる状態が続いている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	来客数の動き	・前年に比べて来店頻度が下がり、来客数も激減している。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言も、目新しいことはなく、効果も薄くなっていくが、感染拡大の波を繰り返し長期化することで、安定収入も確保できず、消費が冷え込んでいる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前は12月ということもあり、暮れに向かってある程度客の流れがあったが、今回は自粛期間中でもあり、新型コロナウイルス感染第4波が来るという不安もあって、皆少し制限しているようである（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で自粛が続いており、来客が全くと言っていいほどいない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・Go To Travelキャンペーン再開のめどが立っておらず、依頼が入ってこない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・1都3県の緊急事態宣言は解除されたが、Go To Travelキャンペーンは停止されたままなので、来客数は一向に増える気配がない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、訪問による営業活動が控えられていることもあって、契約数は目標とする数値を大きく下回っている。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されていたため訪問営業が自粛となり、営業機会がリモートに移行し、慣れるまで時間を要している（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・当社の場合、接触型の営業が多い。客が接触を嫌う傾向が増えてきており、以前の半分位になってきている（東京都）。
		通信会社（経理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で賃貸マンションの新規入居者が減っていることに連動して、賃貸マンション入居者の加入契約が減少している。事業全体の売上は減少傾向が続いている。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの影響で、感染対策に予算が集中し、建設関係その他には予算が付かないというのが現状である。先行きは非常に厳しい。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・民間の建築の動きが停滞しており、受注状況が芳しくない（東京都）。
		その他住宅[住宅管理・リフォーム]（経営者）	お客様の様子	・これだけ新型コロナウイルスの影響が長引くと、同業者間だけでなく客側にも同じように不安があり、なかなか接触することができなくなっている。設計までは多少の時間が掛かるために、非常に厳しい状況が続いている。
	x	一般小売店[家電]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、当店の取引先の飲食店でも、今年で3軒が店を閉めることになった。そうした店であった買い換えなどの話も全てが頓挫してしまった。今後本当に先が見えない（東京都）。
	x	一般小売店[家具]（経営者）	来客数の動き	・コンペなどでゴルフ場に行くと、来場客が非常に多くなっている。景気は悪いのだろうが、偏りがあるように感じる。我々のような一般小売店では、来客が少なく、景気が悪い（東京都）。
	x	一般小売店[食料雑貨]（経営者）	来客数の動き	・自粛ムードが続いている。
	x	一般小売店[印章]（経営者）	来客数の動き	・当商店街はアーケード型ではなく、独立店舗の集まりのため、客がほとんど来ない状態になっている。新型コロナウイルスの影響で客の姿が余り見えず、非常に厳しい。
	x	スーパー（販売促進担当）	それ以外	・店内改装のため、食品以外の売場を全て閉鎖して工事中である。食品のみの営業のため、集客が大幅に減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	衣料品専門店 (営業担当)	来客数の動き	・前年同期の売上は前年比42%だったが、今年はその70%しかいかない。年配者をターゲットとしている当店では、売上が固定費を下回る時期が1年以上続き、継続不可能である。当ショッピングセンターでは今月で5軒が撤退する。家賃交渉しようにも話を聞いてくれない。この先、年配者向けのアパレルはなくなり、大手の安売りアパレル店だけが残る。食料品しか売れないのでは、生き延びられない。飲食店ばかりの保障にはあきれている。
	×	その他小売〔生鮮魚介卸売〕 (営業)	それ以外	・回答理由の全てが当てはまる。最悪の状況だと思うし、政府や自治体の対策がお粗末過ぎることが一番の理由かもしれない(東京都)。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され時短要請が終わっても営業は午後9時までということで、世の中に人が出回らない。外に出て、夜に飲食をしようという気分になっている人は数少なく、大方の人はそうはならないのではないかと。
	×	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言延長の影響をまともに受けてしまい、学校関係の謝恩会や歓送迎会が全てなくなった。3月の売上は3か月前の半分になっている。
	×	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響がいまだに続いている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されても、飲食店の営業自粛はしばらく続くようで、まだまだ厳しい日が続いている。夜の利用者がかなり減っているため、売上が伸びない。昼間にそこそこ利用があることが唯一の救いである。
	×	タクシー(団体役員)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されているので、多少客足が伸びると予想しているが、全く人出は感じられない。
	×	観光名所(職員)	来客数の動き	・観光地のため今が1年で一番の閑散期となるが、緊急事態宣言が延長された影響で、特に来客数が減っている(東京都)。
	×	ゴルフ場(従業員)	それ以外	・新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、引き続き行動を自粛する必要がある。外出、特に旅行や外食を抑制するということは、それだけ失業者、生活困窮者が増え、景気の悪化につながっている。
	×	設計事務所(経営者)	それ以外	・今は客先への営業回りすら不可能になっている。当事務所は行政への営業も行っているが、入口に入るのも控えるという状況になっていて、受付までしか行けず、更にひどいと名刺受付さえも引き上げられている。担当者も今は控えて欲しいと話しているが、その「今」が既に4か月も続いている。人と直接話ができないなかでは、公共、民間共に新しい仕事を得るための営業は非常に厳しくなっている。
	×	住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内数か所に保有している賃貸用ホテルや観光地のホテルは、観光客及びビジネス客が極端に減っているため、ホテル運営業者から約定している賃料がほとんど入ってきていない。また、建設業では、公共工事以外は新規プロジェクトが少なく、民間からの受注もほとんどない。
	×	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標の約69%となり、景気はやや悪い。3か月前と比べても3割減と、悪くなっている。ここ数か月は毎月景気が良くなったり悪くなったりを繰り返していて、安定していない。
企業 動向 関連 (南関東)		*	*	*
		出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷をしている。店受けと外回りの法人とがある。季節的に3月は少し忙しいが、それを除外したとしても4件の会社設立があった。1件は補修で、新しい注文は3本、うち1件は1法人で9万円と、珍しく高額の仕事である(東京都)。
		化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・年末の新型コロナウイルス感染者数の増加と、これに伴う緊急事態宣言の再発出により、ますます個人消費が落ち込んでいる。ノベルティ関連商品、一般雑貨が大きく落ち込んだ時期と比べれば、多少は需要が回復してきている。中国の旺盛な国内需要に関連する分野では回復がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・我々の業界は新型コロナウイルスに対する警戒心を持ちながらも、いろいろな方法でビジネスが動き出している（東京都）。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・飲食業に関しては、21時まで営業していることで仕事帰りのサラリーマンの客足が伸びている。
		金融業（役員）	取引先の様子	・新年度を迎えることと、季節的に外出しやすい時期となり、観光客等の増加がみられることから、以前と比べて景気は良くなっていると感じる。各商店街や観光地への入出が増加しているが、若い世代が多く、商店の売上金額の大幅な増加には至っていない。今後、年配者の外出が増加すれば、売上増加に結び付くと商店街では見込んでいる。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新しい入札案件を受注して、売上が増える見込みである。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・清酒製造業なので、忘年会、新年会、これから始まる新入社員の入社式なども全く振るわず、悪いばかりである（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・卒業式が縮小されたため、注文も減っている。また、お彼岸も人の往来が減り、商材、特にギフトの動きが良くない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末なので多少なりとも受注量が増えているが、売上は前年3月より落ちている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルス禍で急速なデジタル化が進むなか、紙媒体の需要減、受注単価の下落等は、3か月前と同じで変わらない。少しでも新型コロナウイルス収束のめどが立たなければ、取引先の動きも変わらず停滞していく。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	取引先の様子	・1年ぶりにクライアントの季刊誌編集会議が開催された。今までは編集委員が高齢でWeb対応が難しいため、委員会は行わずにメールやFAXなどで季刊誌のページ数を減らして発行していた。今後は、新型コロナウイルス変異株の感染拡大と第4波の予想から、4月以降の編集委員会の開催中止と季刊誌の休刊も予想される（東京都）。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で経済全体が縮小しているなか、医療機器関係はそこそこ良いが、その他は動きが悪いので、景気は悪くなっている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ化粧品容器の受注に回復傾向がみられない。医療品容器の受注も、新企画への切替え時で停滞したまま推移している。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・本来ならば年度末で忙しいはずが、今年度は仕事量が少ない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建設機械は海外向けの受注が増えている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は10%増となっているが、仕入価格も10%以上値上がりしている。販売価格に転嫁する交渉を行っているが、受け入れてもらえていない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今期は前年の30%ほどになると見込んでおり、マイナスである。しかし、新年度は少し幸先の良い出だしで受注ができています。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年明け以降、荷動きは低調なまま推移している。取扱量が前年を下回る状況に変化はなく、厳しい年度末となっている（東京都）。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・宅配事業は頭打ちとなっている（東京都）。
		輸送業（経理担当）	それ以外	・景気が回復しているという実感はない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・繁忙期に物流が増えないまま閑散期となり、更に増えてこない。また、収益も伸びていない。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・1月で底を打ったものの低迷状態が継続している（東京都）。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・製造業は受注が増え、生産能力も徐々にアップしている。ただし、東京オリンピックの先行きがやや不透明なため、観光、ホテル、飲食など投資に慎重な業種も出ている。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で売上が減少しているところが多く、直近の倒産件数も前月に比べて増えている。特に、飲食業やサービス業で落ち込みが大きく、不動産賃貸業では、テレワークの浸透で空きテナントが増え、賃貸料の引下げも多くなっている。これらのことから、緊急事態宣言が解除されても、景気は当分戻らない（東京都）。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス禍のなかではあるが、オフィス賃料は落ち着いている。ただし、新規入居の場合はフリーレント期間が長期化する傾向にある。商業テナントは厳しい状況が続いており、賃料の減額を余儀なくされている（東京都）。
		広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの影響で、イベント業界はまだまだ厳しい状況である。
		税理士	それ以外	・近隣駅までの途中にある店は、新型コロナウイルスの影響で20時までの営業ということもあり、静まり返っている。路地裏では20時以降も客がマスクをせずに騒いでいる店もあるが、表通りの店は20時前でも客入りが少ない（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルス、緊急事態宣言の影響を受けているところは厳しい状況にある。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス流行前に戻りつつある客もあるが、まだまだである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・新規契約は、現状の人手不足を反映した時間単価と、有給休暇取得日数を加味した契約額で受注しているが、既存契約は値上げできない。過去のデフレ下の契約金額には有給休暇を加味していないため、有給休暇取得者の代行費用が増加し、収益を圧迫している（東京都）。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	取引先の様子	・取引先もリモートワークが増え、十分に営業ができない状態が続いている。企業研修や学校関係のイベントも縮小され、撮影などの仕事が少なくなっている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言解除に向けて少し動き出していたが、今後の動向を注視した上で検討したいと、複数の案件がストップしている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からもらう先の予定を見ると、半導体の供給量減少による工場の稼働停止や生産減少の通知が届いているようで、影響を受けると想定している。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・緊急事態宣言が3月7日から2週間延長され21日に解除されたが、全般的に動きが悪い。閉鎖していた飲食店も営業を再開し、やや活気を増してきているようだが、まだまだである。ステイホームのため、賃貸借の苦情ばかり増えて良いことがない（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・これから雇用調整助成金を受給する会社や、資金繰りが厳しい会社がまだまだ多く見受けられる（東京都）。
		税理士	取引先の様子	・飲食店への営業時間短縮要請協力金を受給している小規模飲食店は、売上以上の給付を受けてかえって好調だが、それ以外の業種は軒並み打撃を受けている。時短要請が解除されても客足が戻るとは思えず、一過性の給付金で乗り切れるとは思えない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小企業は厳しい環境にある。4月の昇給ができない金属加工業がある一方で、電気自動車の半導体や5G関連部品の金属加工業者では、大きく受注が増加している（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・いつもより受注量の減少がみられる（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度末の駆け込み需要が少なく、今後の見通しも良い状況とは言えない。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・例年この時期は動きが鈍るが、それにしても全く動かない。入札単価なども下がってきている。
	×	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・希望の販売価格で売れない。希望のテナント料ではテナントが入らない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・まだまだ先行きが不透明である。
雇用 関連  (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は増加しており改善傾向にある。契約継続率も高い（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣求人数は3か月前比130%強、前年比100%超となっており、単月における回復傾向が鮮明になっている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・年度末のため、来年度に向けた人員体制構築における採用活動が増加してきている。一時的だとは思いますが、求人、求職者が増えてきている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・エンジニア派遣の需要が緩やかに上昇傾向に変化してきている。
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・緊急事態宣言に対する慣れもあり、前回の宣言時ほどの景気の落ち込みはなかった。ここきて、新型コロナウイルスワクチンや、緊急事態宣言の解除によってやや上向きになっている。しかし、新型コロナウイルス以前の状況までは回復しておらず、飽くまでも数か月前と比較してやや上向きという程度にとどまる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・宿泊や飲食等、特定の産業は減少したままだが、それ以外の産業は、前年度よりは下回っているものの微減となっている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・緊急事態宣言の影響で景気は下向きになっているように見えるが、所属企業の採用動向や収益の状況等に変化はみられない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣が決定したかどうかではなく、受注が取れたかどうかの議論になっており、人口の受注でつまづいている。稼働中の派遣スタッフが辞める場合、次の紹介先にも影響してきている（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・官公庁系の請負案件には、新型コロナウイルスの影響での特需があるものの、人材派遣依頼は前年並みである。職業紹介の受注は回復傾向にあるが、成約数は横ばいで、民間景気は総じて良いとは言えない（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・主に特需以外の派遣求人数は引き続き鈍い状況だが、底打ち感はある。当面は現状維持のペースで推移するとみている。ただし、新型コロナウイルスワクチン関係の短期特需は急拡大している。
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・3か月前と比べると、求人募集を行う企業が徐々に増えてきているように感じるが、景気が上向きかというそうではない。人手不足でやむを得ず採用活動を開始したように見受けられる（東京都）。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	採用者数の動き	・新型コロナウイルス以前より、当社及び周辺企業では採用に関して慎重になっているが、新卒等の定期採用は行われる見通しのようなのである（東京都）。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求人数は低調な状態が続いている。就職者数は前年比3割減の状態から脱し、減少幅が縮小しているものの、回復傾向にあるとは言い難い。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・3月に入り、本格的な就職活動がスタートしているが、個別企業の動きは例年と変わらないようである。Web採用やオンライン説明会が浸透しているので、表立った動きが見えにくい（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・需要に力強さがみられず、生産、販売面でも上向き力強さは感じられないため、採用者数増にはつながらない（東京都）。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・例年どおり採用する企業と、採用数を絞ったり採用そのものを中止する企業があり、業界によってはばつぎがある（東京都）。	
	求人情報誌制作会社（所長）	求人数の動き	・以前よりは募集の依頼が増えているが、採用が1名と少なく、退職の補充に過ぎない。そのため、やや悪くなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・最悪の状態である。飲食店は壊滅状態で、倒産するところも増えている。予約があるのは介護、病院、配送関係のみである。正社員の募集などは全然なく、臨時のアルバイト募集も出ない。新規の仕事もいくつか取っているが、大した数ではない。未曾有の状態である。

## 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (甲信越)		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・各種クーポン券の発行やクーポン使用率が上がり、結果的にやや高額な消費がみられる。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は遠方からの客が多く、また、紹介というか、当社で葬儀を行った客から話を聞いて相談に来たという人も多くいる。仏壇の処分もかなり多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出から最悪の状態が続いていたが、解除後は多少人出が戻ってきている。ただし、喜んでよいか複雑な心境である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・高校入試が終わり、新入生の注文が集まった。新型コロナウイルスの影響で悪いと心配していた以上に注文数があり、思っていたよりは良い状況である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前年は既に新型コロナウイルスの影響が出ていた時期なので、前年比ではプラスになっている。ただし、一昨年に比べると、決して良いわけではない。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・今月は、1年ぶりのイベントが大型ホールで開催されスタッフの弁当注文を昼夜合わせて110食受けている。これから少しずつイベントも増えていくのではないかと。当市は県の警戒レベル4なので、月末日曜日の地区の踊りのイベントは中止となっている。当市の新型コロナウイルス陽性患者が再び増えてきて、近隣の病院でも受入れが始まる。年度末のため、総会の折詰弁当の注文も増えてきている。
		スーパー（副店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスワクチンの接種も始まり、まだ楽観はできないが、久しぶりに明るい話題となり、客も少し安心したように感じる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・比較的暖かい日が続いており、1月と比べて客の動き、来客数がやや良い方向に向かっている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・暖かくなり、高齢者の来客数が増えている。緊急事態宣言の解除が、客数の増加につながっている感じもする。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客単価が上昇してきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・大雪の影響で落ち込んでいた新車販売が増加に転じている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検及び一般整備は、目標をクリアできている。中古車販売は今一つだが、新車購入の商談が多くなってきており、ふだんより早めに契約になるケースが多い。全国ネットのニュース等でも何度か紹介されたが、関東甲信越のなかで、当県が新型コロナウイルスの感染者数が非常に少なく推移していることも影響しているように思える。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・このところ、来店客数が伸びてきており、やや良くなってきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍ではあるが、天候的にも動きが良くなっているためか、年度末行事での来客は多い。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・前月と比べて宿泊客は増えているものの、価格の安い宿泊プランに集中している。また、同業他社もインターネットで格安プランを販売しているため、思うようには伸びない。
	遊園地（職員）	来客数の動き	・3か月前と比べて、修学旅行の団体受入れや春休みシーズンを迎えたこと、緊急事態宣言の解除に伴い、来場者は増加傾向にある。	
	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・3月前半は前月と同じような動きだったが、後半に入り、緊急事態宣言が解除され、少しずつ客が戻り始めている。春休みに入ってから学生が活発になっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、販促営業活動がなかなか思うようにいかず、苦労している。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の初期から1年が過ぎ、売上は前年と比べて落ちると予測していたが、ほぼ前年並みとなっている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・食品スーパーでは、前年3月には新型コロナウイルスの特需が始まっており、前年と比べると厳しい状況だが、比較的安定した売上は確保できている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・年度末ということもあったかもしれないが、客の流れが通常年や通常日と違ってきている。来店時間帯等が少し移り変わってきて、今後どうなっていくのかみえてこない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・人が動かないため、春夏物が動かない。
		旅行代理店（副支店長）	それ以外	・新型コロナウイルスにより客の動きがみられない。Go To事業も一時停止が継続されており、首都圏の緊急事態宣言が解除されても、自粛ムードは変わらない。自治体の支援事業も県内宿泊のみで、マンネリ感のためか反響が薄い。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・地方での新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり、新規加入も、相変わらず低調である。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・引越しのピークを迎え、出入りはふだんより活発なもの、新規の問合せが極端に多いわけではない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・春の観光シーズンを前に、問合せや予約は増えつつあるが、景気回復には程遠い。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・ゴルフ場の予約や来場者数は、例年どおりである。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・依頼数の多い状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・依然として、当地への客の入込は低調である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・相変わらず新型コロナウイルス禍ではあるものの、人の動きは、今まで我慢していた外食へ流れ出している。ただし、その他への購買意欲は今一つで、買い控えというよりも落ち着いていて、必要ならば購入するが不要でなければ購入しない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月は前年に比べて、集客率が1割減で推移している。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・1～2月のどん底は過ぎ、県独自の観光誘客キャンペーン等の効果もあって、やや上向き傾向になっている。それでも、売上は例年の半分以下と厳しい状況が続いている。Go To事業の停止直後の3か月前と比較しても、やや悪い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前年の3月は、その前年、前々年と比べて70%の売上だった。今月は前年比100%はいくと思ったが、なかなか難しく、90%で終わりそうである。月前半は良かったが、後半は少し落ちてきている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地の新型コロナウイルスの新規感染者は収まったが、街へ出掛けてくる客が少なくなってしまう、ゴーストタウンになっている。物販店で閉店する店も、ちらほら出ている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・このところ当市の新型コロナウイルス感染者数が増えている。先日、当市は県の警戒レベル5になったため、営業どころの話ではない。早く時短要請と協力金を用意してほしい。営業していても客は、ほぼ来ない。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きと回答したが、選択肢の全てに該当するような気がする。とにかく本当に景気が悪い。50年近くやっているが、こんなことは初めてである。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前の12月はまだGo To Travelキャンペーンの実施中だったので、12月と比べると宿泊は20%ほど落ちている。Go To Eatキャンペーンは3月後半にやっと再開されたが、レストランの動きもキャンペーン中であつた12月からは20%ほど落ちている。
	×	その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が、再び増加し始めている。
企業		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
動向 関連 (甲信越)		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの案件数は、全体的に増えてきている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・景況感は製造業を中心に改善の動きがみられる。ただし、製造業や非製造業でも、業種間格差がある。
		食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・業務関係の出荷は大幅に減少し、工場見学者も緊急事態宣言発出の影響で少なく、在庫もかさんで大変厳しい状況にある。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今のところ、売上や販売量が良化の兆しは見えない。変わらず良くない状況と判断する。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・製品受注、販売量共に、低迷している。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の第3波が収まらないなか、変異種の感染拡大懸念等、先行きに対する不安感が拭えていない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス関連で、企業が疲弊してきている。取引先も最初は明るく「今は我慢」と話していたが、最近では悲壮感が漂っている。瞬間的な経営ではなく、この先を見ても、厳しい状況に陥っていると感ぜられる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	取引先の様子	・各店舗は事業継続のため、売上を確保しなくてはならない。そのため、今までは積極的な顧客へのアプローチを遠慮していたが、順次、客への声掛けを行いながら、売上確保を目指している。少しずつ売上が積み上げているといっても、前年比では2割ダウンとのことである。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末で若干、工事は出てきているものの、地域経済に活気はなく、停滞気味である。
		×	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き
雇用 関連 (甲信越)		-	-	-
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体的に求人数が増加してきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・雇用調整助成金の申請も落ち着いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・需給調整機能として、派遣求人が回復基調である。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・平日や休日の駅前等、買物客の動向を見ても、買物袋を提げた人は少ない。周囲で新車を購入した話も聞かない。消費は増えていない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・例年3月は、パートやアルバイトの募集広告を掲載する企業が多いものの、前年に引き続き、現在も新型コロナウイルスの感染者数が増加しているため、特に、飲食やサービス業等の募集は減少したままである。
	×	-	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)		*	*	*
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が落ち着く方向にあると感じられ、客もそう言っている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・3月に入ってから若干ではあるが売上も上がり、物が動くようになってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客単価は低いけど週末の人出が増えたので、多少売上が上向ってきた。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	販売量の動き	・いろいろな規制も解除され、新型コロナウイルスのワクチンも全員に接種される見通しが立ち、これから明るい未来が見えてきそうである。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、プライダル、年度末の花束の注文等はとても少なく心配したが、今年はプライダルもぼちぼち動き出し、年度末の花の注文はかなり多い。落ちていた売上も元に戻りつつある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・前年は新型コロナウイルス禍への突入が勢いを増していた。今年は第3波が収まらない内の緊急事態宣言解除であり、すぐ第4波への様相を呈している。本来模範を示すべき官僚が禁を犯す状況で一般国民も亦然という状態である。観光客もマイカー中心の復旧であり鉄道・観光バス利用の回復はめどが立たない。前年比はややプラス、前々年比はまだ半分少々の状況である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・平日は若年層の来客が多く、スニーカーなどのカジュアルシューズが売れている。遠出ができないため、近場で友人同士のランチのついでに買物に来ている様子である。土日はフレッシュ用スーツや靴のまとめ買いをする家族客が少し増えてきて、売上が上がっている。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除を機に、レジャー及びビジネス共に客足が少しずつ戻りつつある。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・今月に入り来客数は前年比100%前後で推移している。前年は新型コロナウイルス禍で減った水準であり、元に戻っている状態ではない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・弔事、慶事等の返礼品が増えている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により、人出が増えた。
		百貨店（計画担当）	お客様の様子	・少し前の底の状態に比べると徐々に人出が増えて、入店が増えてきている。富裕者層は旅行などへの支出が難しい状況のなか、物への支出が相変わらず維持されている。
		百貨店（業績管理担当）	販売量の動き	・3か月前と比べ新型コロナウイルスの影響が緩和され、来客数や売上が伸びている。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除やテナントビルのイベントもあり、来客数が増加した。購入意欲の高まりを感じられ、自家需要が目立っており高額品も稼働している。徐々に売上は戻り始めている。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・2月と比較すると大多数の店舗が改善傾向にあるが、2月は祝日が2日あったため、駅ナカ店舗では単純な比較ができない。しかし、祝日を加味しても回復の兆しは見える。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・まだまだ前年比マイナス3%くらいだが、良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後来客数が徐々に増えて、販売量が増加している。特に朝の通勤客を中心ににおにぎり、パンや飲料などの日常商品の販売量がアップしている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて営業活動が再開されたためか、サラリーマンの来客数が徐々に増えている。
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・3月の売上前年比は101.2%という状況である。ただし、緊急事態宣言中の前年と比べ売上が同水準のため、判断が難しい。3か月前からは経営数値上の改善がみられるが、予断を許さない状況である。事実、新型コロナウイルス感染者数が直近では増えてきていることが懸念材料としてある。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・自粛ムードではあるが、大半の常連客が来店して少ない商品の中で買物をしてきて大変有り難い。売上の分母を大きくする商売をしてこなかったため、新型コロナウイルス禍でも何とか耐えている。
		乗用車販売店（経営者）	それ以外	・客が外に出られるようになり、少なくなっていた事故件数が通常程度に多くなってきて、事故修理の仕事が増えた。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・客が新型コロナウイルスに慣れたのが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いたのか不明だが、以前の正常な状態の雰囲気にならず戻りつつあると感じる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注台数は増えたが、前年比でみると1割くらい減っている。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・前年末の頃と比べると、新型コロナウイルスに関しての心配事は希薄になってきており、余り気にしない人が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・2月後半より、自粛疲れからか来客数が少しずつ増加傾向にあり、さらに各地で緊急事態宣言が解除されたことにより、昼夜共に来客数が増加している。客単価も上昇傾向である。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されるなど、徐々に不安感は払拭されつつある雰囲気である。しかし、今後何かが起きるかもしれない不安感も同時にある。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・1～2か月前よりも大底を打った感があるが非常に弱いものであり、若干良くなっている程度で、まだまだ収支的には事業を継続できるレベルにはないというのが現状である。若干来客数の動きは良くなった。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比べて、少しずつ良くなってきている。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・年度末で、駆け込みの光回線や電話回線の新規申込みが増加した。
		テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・週末の天候が良く気温も暖かいため、入園者数は増えている。
		美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・マスク生活による口周りの吹き出物や乾燥の手入れのために来店する客が少し増えた。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・少しずつイベントが再開され、卒業式、入学式、外出などの話が客との会話に出始めた。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	販売量の動き	・緊急事態宣言下において、利用者を紹介してくれるケアマネージャーがテレワーク勤務をすることがあり紹介件数が低迷していたが、解除とともに改善傾向にある。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・以前と比較すれば小さな案件だが少しずつ出てきている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・契約者数は新型コロナウイルス発生以前と同じくらいまでには回復した。集合住宅より戸建て住宅の楽しさや安全性を求める客が多くなったと推測する。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍を考えて目標数値を考えていたが、大幅に来客数が多かった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数そのものが増えてきていないため、どうしても販売量や売上高につながらない。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が収まるまではどうしようもない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・3月は年度末で経済活動は活性化するが、企業・個人の動向は贈答品業界では変わらない状況が続いている。経費はなるべく少なくするとか、個人は付き合いの幅を広げないなど、新型コロナウイルス禍で自粛ムードが進み、結婚式及び葬式、友人との付き合いは、全て対面で会う人数を減らしている。したがって、3か月前と比べると特に変わらない、どちらかといえば閉塞感のある静かな3月である。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響も少なく、新年度用の受注量が例年どおり見込まれる。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	販売量の動き	・来客数は戻ってきたが、購入には至らない客が多い。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染者数の減少や県独自の緊急事態宣言の解除に伴い、来客数や売上も増加傾向にあったが、県内における新型コロナウイルス変異種の感染者数の増加傾向により、来客数や売上はやや右肩下がりになり、引き続き厳しい状況が想定される。また、桜の花見需要もほとんど消失している状況にある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・3月の日曜日は天候が悪い日が多く来客数は悪かったが、新型コロナウイルスの影響がまだ収まっていないことで、まだ平日の来客数、買上点数や1品単価は増えた状況であり、売上は依然好調である。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で減った来客数は戻ってこない。客単価も少し落ちてきている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・最低限の販売数量が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店員）	単価の動き	・春休みに入り子供がいる家庭での食事などの影響で、売上は多少良くなっているが、野菜の価格が安値で安定しているため、売上はさほど伸びていない。
		スーパー（ブロック長）	販売量の動き	・時短営業、外出自粛要請の延長によって、内食需要は一定のレベルで継続しているが、前年のような急激に伸長する食品のカテゴリーはなく、ティッシュペーパーとトイレットペーパーの異常販売があった前年比にも苦しむ状況となっている。
		スーパー（販売担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響は続いている。売上の前年比は100%を達成していない。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・年末年始に買物をしすぎたのか、買い置きがあるのか、来客数が大分減った。
		スーパー（支店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言も解除されつつあるなかでも、新型コロナウイルス禍であることには変わりはなく、業種によってはにぎわいを取り戻しつつあるところもあるが、当社に関しては、客足も遠のいたまままだまだ芳しくない状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでも、前月と比較して来客数は前年比で4%改善している。感染は拡大しているが、新型コロナウイルス慣れのため来店客はあり、米飯やファーストフードなど主力商品群が5～6%改善している。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・来客数が減り、廃棄する物がやや多かった。
		コンビニ（商品企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除や気温上昇により、ここに来て来客数が伸長しているが、発出前の12月の動向と比較してほぼ同等の傾向である。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・前年春の緊急事態宣言時とは異なり、年明けの緊急事態宣言発出以降も、法人・個人客共に大きな買い控え等は見られない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	来客数の動き	・来客数は、新型コロナウイルスの影響で激減したままである。売上も立たない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・引越しする単身者のまとめ買いは少なかったものの、パソコンは高性能タイプがよく売れた。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・3月は決算期になるので、値引きを期待する客や新たに車を購入する客の来店でにぎわうものだが、密になるのを嫌うのか、来客数は振るわなかった。最近では、ネットで試乗や商談を予約してから、時間を決めて来店する客が増えてきたのも一因になっているようだ。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売台数は、前年は新型コロナウイルスの影響を受けていたため、前年よりは増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除となり、人の動きは若干出てきたように感じる。しかし、客との会話においてまだ雑談を交わすところまで気分は明るくなっていない。市場は盛り上がり欠け、年度末決算期であったが客の財布のひもは固いままのように感じられる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出から解除まで、販売量に関してはここ2～3か月変わらない。新型コロナウイルスの影響により商品の供給が戻らないため、広告も打てない状況が続いている。本来繁忙期であるこの時期において、現状は厳しい。
		住関連専門店（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス終息の見通しが付かないため、新築住宅、飲食関係の店舗改装などの見直しや延期が続いている。
		その他専門店【貴金属】（経営者）	来客数の動き	・商店街の通行人数は増えているが、購買意欲はまだまだ元に戻っておらず、来客数、購買単価は低いままである。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・少し新型コロナウイルスに客が慣れてしまったような気がする。男性の客が飲み屋へ飲みに行かない分が当店で回っているような感じがする。明らかに男性の1人客が増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策での時短営業ということもあり、来客数は少なかった。
		一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・団体での食事はまだまだ控えているので、売上につながらない。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル (支配人)	来客数の動き	・前年の3月は既に新型コロナウイルスの影響を受け大きく減収となった。前年比でいえばどの部門も100%超ではあるが、全社で120%では何の意味もなさない。年度初めより何度も予算を見直してきたが、結局今月も削減した予算の40%とまだまだ回復の兆しは見てこない。今月の下げ幅も3か月前とは変わっておらず、悪いままといえる。
		都市型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後に個人需要は飲食施設を中心に伸びてきている。法人宴会の利用は、良いときの1/4程度で推移しており、まだ当分は難しい状況が続くと思われる。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・自動車関連業界は良いが、それ以外の飲食、宿泊等の関連業界や旅行業、外国人留学生、インバウンドなど人の移動と密接なところは経営に行き詰まり始めており、ターミナル駅前、都心部の繁華街や地下街も、飲食店、アパレル店舗の撤退が目立ってきている。有名な大型ビルのオフィスでも年度末に向けて撤退、縮小が目立っており、賃料の低下も起きている。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・旅行業は完全に新型コロナウイルスに振り回されており、感染者数が減少に向かうと少しずつ旅行申込みが発生するが、感染が拡大し始めるとパタリと申込みが止まる上に申込済みの旅行まで取消しになる。一番つらいのが、収益の要となる観光性の団体旅行が全く発生しないことである。まだ最低半年は、この状態が続くと見込む。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・観光地では人出が増えているという報道があるが、旅行会社の利用にはつながっていない。Go Toキャンペーンのインパクトが強すぎて、Go Toキャンペーン停止期間の割引のない商品には魅力を感じてもらえない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・やはり自粛という言葉が効いているのか、繁華街の人出が少ない。飲食店街からは暇だという声しか聞かない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・訪問営業をしているが、通常どおりに勤務をしており、例年の年度末と変わらず仕事が入ってきている。以前と比べ有線インターネットの需要はあるようになった。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・国内の一般客の動きは良くなっているが、国内団体客やインバウンドがない分を埋めるまでは至っていない。
		レジャーランド (職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向にあり、引き続き自粛ムードが続く。3月後半は暖かい日が続く、人の動きが感じられる。
		観光名所(案内係)	お客様の様子	・繁華街の人通りが少し良くなってきたような感じを受ける。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・この3月は、暖かい日が多かったが週末には雨の日が多く、入場者は伸び悩んだ。それでも予算及び前年並みの入場者数をほぼ確保しており、景気は変わらないとみている。
		美容室(経営者)	それ以外	・前年からの新型コロナウイルスの影響を受けて、当店の客層は高齢化しているため外出を恐れて出足が悪い。
		設計事務所(職員)	お客様の様子	・客との話に景気の良くなる話はなかった。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・相変わらず横ばい状態である。大きな変化はない。
		一般小売店[酒類](経営者)	来客数の動き	・3月に入り時短営業が少し緩和されたが、飲食店への来店は引き続き低調である。営業を再開した店も来客数が1けたの店がほとんどで、アルバイトの出勤止めを依然として依頼している。
		スーパー(商品開発担当)	販売量の動き	・今までは新型コロナウイルスの感染が大きく影響し、前年に対して売上の伸長が105%近くあったが、今月からは新型コロナウイルスのプラス分がなくなり、前年を割る形で推移した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・緊急事態宣言により新型コロナウイルスの感染者数が少し落ち着いたため、外食が増え内食需要は若干下がったようで、来客数、単価共に3か月前より下がっている。ただし、その後の緊急事態宣言の解除後に感染者数の増加もあり、販売動向は不透明である。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍でも比較的堅調な家電業界だったが、巣籠り・テレワーク需要も一巡し大物が売れなくなっている。
		その他専門店【雑貨】（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が大きい。
		その他専門店【書籍】（店員）	来客数の動き	・今月は新入学の準備などもあり売上は良いものの、前年は新型コロナウイルスの影響で巣籠り需要が高まって売上も伸びたため、今年はそのまでの需要が見込めず、前年より1割以上売上を落とす日が多かった。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・まだまだ続く新型コロナウイルスの先がまだ見えないということが、今の状況である。
		その他飲食【ワイン輸入】（経営企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で自粛の対象になっている業態では倒産により客が減り、販売量が減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が増えている。
		タクシー運転手	単価の動き	・当地のタクシー業界では、今月2社廃業し、当社も緊急事態宣言のため前月から今月15日までの1か月間は約2割の台数が休車した。夜の街での営業はとても厳しく、せめて店が24時頃までの営業になればもう少し売上は上がると思うが、まだまだ夜の売上は伸びない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・引越しシーズンのため加入、解約共に例年増加する月であるが、加入は例年並みで、解約は例年の2割増しである。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きや単価の動きから、景気はやや悪くなっていると判断した。
		その他レジャー施設【鉄道会社】（職員）	来客数の動き	・通勤通学客の密回避のためか、3か月前と比較して減少している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・外出自粛の要請を受けて、客の来店間隔が段々と延びてきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響である。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、皆売上の落ち込みや借入れが長期化しているため、消費は相当沈んでいる。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・夕方以降の来客数の減少傾向に歯止めが掛からない。
	×	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が収束しないため、当店の売上数・来客数は共に前年比50%割れが続いている。
	×	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・決算最終月である3月は実に動きが悪かった。例年と比べても来客数が減っている。新規の来店客も少ない。
	×	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・全体的に動きが良くない月であった。取引先や他社の様子からも、業界全般が良くなかったようである。例年3月は動く月であるが、今月は今一つであった。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・予約が入ってもすぐキャンセルになる。
	×	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言で、宿泊・宴会はほぼ売上がない。レストランも、夜は客がない。
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンも一時停止のまま、新型コロナウイルス感染者数のリバウンドのニュースや県内での変異種確認で、春休みも余り予約が増えなかった。予約があってもマイカーで行ける範囲の旅行客ばかりであった。4人以上の会食が難しいので全く団体予約も入らず、海外旅行も帰国後の2週間は待機で、利益が上がらず小規模の旅行会社には大変厳しい状況である。国内の個人旅行だけでは、更に大変厳しい経営状態が続く。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止が続いており、旅行の予約が全くない。早期のGo To Travelキャンペーン再開を期待したい。
	×	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束しない限り難しい。Go To Travelキャンペーンも一時停止の解除が延期であるし、インバウンドも来ない限りどんどん悪くなっていく。
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・まだ安心はできない。新型コロナウイルスの感染がいつ落ち着くのか見当が付かない。
	×	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・リフォームでキッチンセットを交換しようとする客は増えたが、最終決定までに時間が掛かり、回転が悪くなっている。
企業動向関連		*	*	*
(東海)		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除になり消費マインドも上昇してきているためか、商品の動きも活発化してきている。特に冷凍食品、冷凍和菓子関係の動きが良い。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・緊急事態宣言解除を受けて外出が増えることから、少し景気回復に向かっている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍にもかかわらず、毎年同様の年度末らしい人の動きがあった。
		通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの第3波が収束して、少しずつではあるが経済活動が再稼働し始めた。東京オリンピックの聖火リレーも世の中を明るくする話題となっている。新型コロナウイルスのワクチン接種が展開されることも安心を呼ぶ要因となり、希望を持ちつつある。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車関連部品等及び電化製品の工場などの勤務者からは、比較的生産量も多く忙しいという声が多い。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売買案件数が多くなっている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・3月に入り折込広告の受注が増えてきている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が収束しつつあり、注文量が増えつつある。
		化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・電材向け需要が引き続き好調である。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・緊急事態宣言が解除されたため街の人出は一変して景気が戻ったように見え、実際に飲食店などは、営業時間短縮の影響もあるものの予約の取れない店が出てきた。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・受注量は安定している。例年3月末に掛けて予算消化と思われる短納期の注文が散見されるが、今年はそれが無い。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客への訪問がまだできないため、設備投資計画についても最終的な詰めを行うことができず、内示情報などの取得ができない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの関係で客先の業界はまだまだ難しく、各店も設備投資を渋っている。当分良くならないと判断する。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・通信業界では通信インフラ増強の要望が依然強く、当社でも光端末器の受注が好調で、年内の納入スケジュールはほぼ固まっている。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・本業の航空機製造業はどん底で全然動きがないが、現在応援で入っている自動車製造業の景気は、余り変わっていない。
		輸送業（経営者）	それ以外	・半導体の供給量や新型コロナウイルスの感染拡大などの不確定要素が多く、物量の変動要因がつかめない。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・荷主全体として受注量は少しずつ増えてきていて、新型コロナウイルス発生以前の水準にかなり近づいている。新型コロナウイルスの影響による減少部分は、回復傾向にあるとみられる。ただし、業種によってはまだ沈んだままの荷主もある。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・企業の設備投資が減少するなかで個人消費の伸びではカバーしきれしていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の12月は、新型コロナウイルスの影響で秋まで低迷していた荷物量が、年末に向かって徐々に回復しつつあった。10～12月で徐々に上向き、前年比では荷物量は減っているが9月までの動きに比べると増えていた。この3月も12月のような状況にあり、3か月前と比べると景気はほぼ変わらないという印象を持っている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・国際航空貨物は、依然として多い。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・飲食業関連、旅行・宿泊の観光業関連を中心に新型コロナウイルスの影響が大きく、厳しい状況が続いている。一方、株高、円安により一部業種では業績の回復もみられる。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも雨の日が多い。新型コロナウイルスの影響により出費を控える傾向も継続しており、売上は前年同期を下回っている。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・当地では新型コロナウイルスの感染者数は下げ止まりとなっているが、目立った変化はみられず、広告の受注は相変わらず厳しい。
		公認会計士	それ以外	・中堅中小企業の業績が厳しい。中堅中小企業の従業員のボーナスがカットされている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・曜日や時間にもよるが、飲食店に客が戻ってきているように思う。ただ、営業時間の短縮要請が解除されても、従来のような夜遅くに来店することは少ないようにも思われる。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月も前月同様好調であった。ただし、これは当社だけであり、競合先は仕事が少なくてなかなか難しそうである。他の取引先でも厳しい状態が続いている様子である。全体としては、まだ半年は良くないと思う。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が軒並み前年割れであった。飲食店からの受注減少が大きく響いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・最近では新型コロナウイルスの変異種も多く発生し、第4波拡大のため、全ての産業への影響が大きく景気はやや悪い。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に年度末で上昇する見込みであったが、前年並みまでが精一杯である。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・引き合いが減少していると感じる。建設市況全般が停滞気味に見受けられ、受注に響き出してきた。
		電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・期末の3月末で大幅な人員整理があり、所属部署の派遣社員のうち2人が契約終了となった。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産台数が当初の予定より減産になっている。半導体不足のため、完成車の台数を余り造れなくなったことが要因である。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・3月は公共施設等の仕事も駆け込みで入っていたが、4月以降のめどは3月後半でも立っていないという話を取引先等からよく聞くため、景気はやや悪くなっていると判断した。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・有効求人倍率が5か月ぶりに下がった。飲食業・宿泊業等の業績不振による影響が大きいとは思いますが、失業者数が220万人とかなりの数になっており、とても景気の良い状況ではない。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・営業に出掛ける先々で、以前行ったことのある店の閉店看板を目にする。個人店もチェーン系のフランチャイズ店も関係なく、じわじわとランチの選択肢が減っている。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・前年の年度替わりよりトラックの動きが良くない。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。
雇用関連 (東海)		-	-	-
		人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・年度末の駆け込み予算消化もあるが、開発オーダーは増加している。派遣における残業時間も増加傾向にある。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新年度に向けた人材採用の兆しが見えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数は前年比では80%と厳しい状況だが、年度末需要もあり3か月前との比較では徐々に回復している。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	雇用形態の様子	・2月の福島県沖の地震や半導体不足で工場の稼働が一時停止となり生産体制に影響が出たものの、3月は、2月の生産遅れ分の取戻しと目標達成のために雇用を維持する動きがある。
		新聞社[求人広告](営業担当)	それ以外	・緊急事態宣言が解除されて、人と物の動きが出てきた。
		職業安定所(次長)	求人数の動き	・有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると減少傾向が続いているものの、徐々に求人数に改善傾向がみられる。
		民間職業紹介機関(支社長)	求人数の動き	・1~3月の求人数は、前年同期並みに回復してきている。
		民間職業紹介機関(営業担当)	採用者数の動き	・期末という季節性は新型コロナウイルス禍においても同様の動きをたどっており、4月1日入社に向けて企業の採用意欲の高まりがみられた。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・歓送迎会等も全くなく、ホテル業界は厳しい。
		人材派遣会社(企画統括)	求人数の動き	・紹介、派遣共に求人数が前年比で減少し、伸び悩んでいる。
		人材派遣会社(営業担当)	周辺企業の様子	・主要取引先の動向は3か月前と比べてほぼ変化がなく、所属する拠点の業績も同程度に推移している。
		新聞社[求人広告](営業担当)	周辺企業の様子	・年度末に向かうなか、企業の業績・経営状況は引き続き厳しく、街中ではサービス業を中心に閉店も急増している。そのため、求人は特に影響を受けている。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職者が2か月ぶりに増加したが、比較的落ち着いた動きとなっている。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・例年この時期は新年度からの就職が決まり動きが鈍るため、求職者の減少は新型コロナウイルスの影響とはいえない。
		職業安定所(次長)	求職者数の動き	・前月の求人・求職の動向は、新規求人、有効求人共に前々月と比べ増加している。新規求職者、有効求職者は共に前々月とほぼ変わらず、有効求人倍率は前月比で上昇している。
		人材派遣業(営業担当)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの終息がまだまだみえず、様々な手法で経費を削減する動きが見える。
	x	-	-	-

## 7. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		*	*	*
(北陸)		商店街(代表者)	お客様の様子	・期の終わりで決着をつけたいという意気込みが伝わってきており、少しずつ前向きな動きが出てきそうである。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・ようやく前年と同じ売上実績に到達した。とはいえ新型コロナウイルス発生前の一昨年と比べると40%しかない。
		一般小売店[鮮魚](役員)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の動きが活発になっている。売上は前年並みかそれ以上を確保できている。しかし、一昨年から見ると6割に満たない。
		一般小売店[書籍](従業員)	来客数の動き	・来客数は僅かに前月から増えている。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・遠方への旅行を控え、近場の商業施設などで休日を過ごす傾向が定着しつつある。家で旅気分という切り口で催事を企画すると、弁当、総菜、スイーツといったご当地グルメの売上が非常に好調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・3月上旬にリニューアルを実施した。全館改装のため、大幅な来客数の増加となる。感染対策には細心の注意をはらい、入店時の検温などを実施している。県内の感染者数がやや少なく、来店客は全年代で増加傾向にあるが、最近来店していなかった50代以上の来店や購入が増えている。特に物産催事、日替り販売の菓子など限定商品には長蛇の列ができています。食に関しては、新型コロナウイルスの影響をどの年代も全く受けていない状況である。20～40代前半の来店は多いが、必需品と食以外の購入は減少傾向である。また、紳士、婦人共に衣料品に関しては、集客はあるが購入には至らない。改装箇所以外の区画についても同様である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・人の動きが良くなってきている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・工期が遅れていた新築物件が完成し始めて、家電一式の販売が増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・タイヤ交換や車検等、繁忙期であるためサービスでの入庫は多いが、販売は苦戦している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・例年、最需要期となる2～3月のため、来客数も商談の中身も充実しており、懸念されていた新型コロナウイルスの感染拡大の影響はさほどなく、順調に受注を伸ばしている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除やエリア内の新型コロナウイルス感染者数の減少傾向が継続しており、3か月前よりも来客数、販売量共に回復してきている。しかしながら一昨年の状況までには至っておらず、引き続き感染者数の推移に業績が左右されており、この先その期間が半年以上は続くものと想定している。
		一般レストラン（統括）	お客様の様子	・3月7日に一部地域の緊急事態宣言を解除し、首都圏も21日で解除したことを受け、3月は前半から後半に掛けてどんどん人の動きが活発化している。20日以降は気温が上がってポカポカ陽気で、週末は花見や旅行に出掛けている消費者が多くなっている。観光都市である当地は、20日以降観光客が増えている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・持病を持つ常連客は1年前から来店しない中で、何とか新型コロナウイルス発生以前の数字に戻りつつあり、安どしている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・子供向けにスマートフォンの需要が高まる時期であり、販売数は伸びてきているが、新プランの発表などにより見直しを希望する客がかなり増えている。そのような要因で来客数に対して販売量が伸びている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今年は1～2月に雪が多くて客の動きが悪かった分、3月に入って大きく動いてきている。問合せ件数も例年並みに戻り、契約者数も契約金額も例年以上となっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベント等への来客数は増えている。
		一般小売店[精肉]（店長）	来客数の動き	・今月は、安い豚や鶏、牛の細切れ等の動きは良いのだが、ステーキ、薄切り肉等のギフト関係の商材の動きは非常に悪く、良いとも悪いともいえない状況が続いている。
		一般小売店[事務用品]（店員）	販売量の動き	・民間企業及び一部官公庁の売上が低迷している。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・4都県の緊急事態宣言が解除されたことで観光客が増えている。特に学生の卒業旅行で4～5人ほどのグループが目立つ。土産需要があり、食品が好調に推移している。店全体で見ると今月は前年比プラス27%だが、一昨年比では2%減少の見込みである。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・競合店出店の影響があり、来客数は増えず、買上点数の減少が徐々にみえるようになってきている。価格競争によるものが主な要因だが、無駄なものは買わないという節約志向があるのではないかと考える。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価が変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・ここ半年、売上は底の状態が続いている。売上が上がる兆しは見られず、新型コロナウイルス禍で最悪の時期よりはましになったという状況で、これ以上売上が下がるとはみていない。もう少し回復するかという期待はあったが、依然として低迷している。
		コンビニ(店舗管理)	来客数の動き	・第3波が始まり自粛ムードであった頃から状況が好転していない。
		コンビニ(営業)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、駅前を中心に人が戻ってきていない。また、工場の時短などがあり客が戻ってきていない。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・今月は天候も持ち直し暖かい日が増えてきたことや、当地では新型コロナウイルスの感染がそれほど深刻ではないことから、少し明るい兆しが見えている。
		衣料品専門店(店舗運営)	販売量の動き	・購買意欲は徐々に戻っていると感じるが、引き続きまとめ買いの減少がみられる。
		家電量販店(本部)	販売量の動き	・前年と比べると増加、一昨年と比べると横ばいの傾向は変わらない。単価がアップしている。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・サービス部門の売上は前年同時期より良い状況だが、車両の販売量は増えない状態が続いている。新しい車に乗り換えることに慎重な様子が見える。
		自動車備品販売店(役員)	単価の動き	・前月と比較して客が明らかに増えている。買上点数は増えたが、高額品の動きは相変わらず低迷し、単価も改善していない。
		その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・景気が悪いままである。今後、歓送迎会や桜の花見などでも、売上が上がる期待が全くない状態である。
		一般レストラン(店長)	販売量の動き	・来客数は最悪の状態だったが、月末に掛けて弁当のテイクアウトが少し増えてきている。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから春休みに入り、少しずつ客が戻ってきている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、先行きが明るくならないことには、状況が変わらないと考える。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・今月の契約者数は前年同月と比べると、通信、放送共に若干減少している。減少幅は3か月前と変わらず推移している。
		テーマパーク(役員)	来客数の動き	・全国的に緊急事態宣言は解除されたが、依然として人の動きは鈍い。Go To Travelキャンペーンの再開も当面ないことから旅行客が大変少なく休業状態の日も多くなっており、2~3か月前と変わらない状況である。
		その他レジャー施設[スポーツクラブ](総支配人)	お客様の様子	・県内の新型コロナウイルス感染者が減ってきており、自粛の範囲が縮小されてきているのを皆が肌で感じているようである。施設体験の希望も多くなってきており、今後につなげていく希望となっているところである。
		美容室(経営者)	それ以外	・前年3月は当地でも新型コロナウイルス禍が始まった月である。今のところ当地では新型コロナウイルスの発生を極力抑え込んでおり、今月の来客数は前年を大きく上回っているが、一昨年と比べると同水準である。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・住宅展示場の来場者数が増加する様子は感じられない。
		住宅販売会社(営業)	来客数の動き	・来客数に変化がない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・百貨店のリニューアルで人出は多いが客単価は低く、売上を縮めてみるとパッとしない。客の財布のひもは非常に固く、価格に敏感である。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・県による景気刺激策の割引制度が終了して以降、来客数、購入点数共に下落傾向がみられる。
		スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・販促費を掛けても、以前のような集客効果がみられず、費用対効果は得られない。特に平常時の来客数については、販促を強化しても若干伸びる程度で売上にはつながっていない。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・3月は式典の多い月だが、新型コロナウイルスは人と人との接触の機会を限定的にしている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・東京など大都市における緊急事態宣言の解除後、夜の繁華街に少し人が出ている。しかし、近辺からの客が多いようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・本来であれば3月ば需要期であるが、乗客数、販売数共に伸びていない。金の使い方や使い道に変化が出てきている様子がうかがえる。
	x	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・卒業や就職祝いの家族単位での食事は例年並みであるが、企業や組合による送別会などの団体利用は限りなくゼロに近く、全体では例年の6割ほどの集客しかない。
	x	観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上は27%、宿泊人数は25%、宿泊単価は117%である。宿泊人数の減少分を補うため、単価が上がる商品の販売及び日帰りによる集客等を実施しているが、現状は厳しい状況が続くとみている。
	x	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・売上高はGo To Travelキャンペーンが12月28日に一時停止になって以来、急激に悪くなっている。予約はかなり入っていたが、宿泊も宴会もレストランもキャンセルが相次いでいる。
	x	タクシー運転手	来客数の動き	・県独自の時短要請は3月7日で終了し、繁華街への人出は多少増えたがまだまだである。観光客は卒業旅行で少し増えてきている。元のようにするにはまだまだ時間が掛かると考える。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*	*
		食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍のなかでのビジネスに馴染んできた感じがする。家庭消費向けの市販用は引き続き堅調に推移し、苦戦中の外食向けなどを含む業務用においても、緊急事態宣言解除の後押しがあったか、新規需要の創出を狙った商談が成立するなど息を吹き返しつつある。
		一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧米市場及び日本市場の受注が順調に取れている。
		精密機械器具製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・ここ3か月の販売状況は、当初計画のイメージ以上に堅調に推移しており、生産もほぼ現状のキャパシティに対して一杯の状態である。
		通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・業種によって異なるものの、全般的に投資等が増加傾向にある。また、補助金が予算化され、減収となった企業において活用しやすいことも好調の要因とみている。
		化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらず推移している。
		プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況及び自動車業界の半導体不足による影響がマイナス要因となり、回復に足踏み状態が続いている。
		建設業(経営者)	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、旅行、宿泊、飲食業界の不況はもとより、その関連の広告業者や印刷業者の苦しさも、新型コロナウイルスの影響をほとんど受けない公共事業を営む土木工事業企業との業種間格差が広がっている。また、同じ土木業者間でも、しゃにむに受注する企業と手堅い経営を目指す企業とであつれきが生じている。
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除されて時間が経っていないが、年未年始よりは人とモノの流れは回復し始めている。しかし、前年よりはまだまだ少し良いというレベルである。
		司法書士	取引先の様子	・住宅ローン以外で事業者からの業務依頼がこれまでになくあるが、大型新規事業向けの景気が良いとみられるもの、取引先に対する売掛金担保のといった景気が悪いとみられるものと双方ある。
	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・現在は個人客からの問合せが少しずつ来ている状況で、まだ特別多いという感じはない。	
	税理士(所長)	取引先の様子	・取引先のなかでは、特に建設業関係が設備事業も含めて堅調である。事業者数が減っていることもあり、実際に作業をしてくれる中小の建設業者を取り合いする状況になっており、価格が悪くないのではないかと考える。ただし、設備投資絡みの機械部品の製造関係は、以前と変わらず今も厳しい状態が続いている。いろいろな輸出機会の停滞、新型コロナウイルスの影響が徐々に出てきているのではないかと感じている。小売業、観光業、バス事業は依然として新型コロナウイルスの影響から脱し切れておらず、厳しい状態である。	
	x	-	-	-



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連  (北陸)		-	-	-
		民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・1月頃より求人がやや増加傾向にある。求職者を探 すのに苦労しており、見つかってもマッチングしない ことが多い。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・年度末にあたる時期だが、新規求人がほとんどな い。
		新聞社[求人広 告](営業)	周辺企業の様子	・小売で自社商品が売れてきていると企業の数社から 聞いている。少し上向きな話が出てきている。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・一定数の求人の動きはコンスタントにあるものの、 新型コロナウイルス禍前の状況までにはまだまだ程遠 く、企業側が新規、臨時雇用共に採用数を絞っている 様子に大きな変化は見られない。
		職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・求人数は徐々に回復しつつあるが、新規求職者数が 増加している。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人の数が減っている。	
	x	-	-	-

## 8. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所株式会社)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (近畿)		百貨店(売場主 任)	販売量の動き	・春物衣料や宝飾品などの高額商品を中心に、販売は おおむね順調に推移している。ただし、化粧品のように インバウンド景気に支えられてきた商材は、当然の ことながら回復には至っていない。
		一般小売店[鮮 魚](営業担 当)	それ以外	・売上は3か月前に比べると20%伸びているが、前年 比では20%ダウンしている。
		百貨店(マネー ジャー)	来客数の動き	・特選ブランドに比べると勢いはやや弱いものの、婦 人服、紳士服共に、気温が上昇するにつれて、安定し て売上が上がるようになってきている。子供服では、新入 学や進級などに伴う買換え需要がみられるなど、どの カテゴリーの売上も回復傾向がみられる。
		百貨店(外商担 当)	来客数の動き	・食品売場やレストランなどは、明らかに来客数が増 加している。
		百貨店(マネー ジャー)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により、来客数が前年比で 6.3%増加と回復している。時計などの高額品や、入 学、就職祝いなどのギフト需要が戻ってきている。
		百貨店(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除によって気持ちが緩んでおり、 高齢者が1人で買物に来店する例も増えている。ただ し、買物の内容は家で使う物が多く、いわゆる外出用 はまだまだ需要が少ない。
		百貨店(サービ ス担当)	販売量の動き	・今月は新型コロナウイルス関連の規制が解除された ため、来客数、売上共に好調に推移している。ただ し、前年は3月から営業時間を短縮したため、前年の 数字は確保しているが、2年前の水準には戻っていな い。
		百貨店(販促担 当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除を受けて、来客数が回復傾向に ある。集客が午前シフトし、夜間が少ない傾向は変 わらないものの、週末などは街全体に人が戻ってきて いる。一方、食品や入学、卒業関連などは堅調に推移 しているが、ファッション関連は鈍い動きが続いてい る。また、レストランは時短営業の継続により、大き く落ち込んでいる。
		百貨店(営業推 進担当)	来客数の動き	・特に土日の来街者数の増加が、来店客の増加に寄与 している。
		百貨店(マネー ジャー)	お客様の様子	・県内で緊急事態宣言が一部解除された頃から、明ら かに国内の中間層による購入が、過去の反動などから 上向いてきている。特に、必需品のモチベーション関 連の動きは堅調である。また、富裕層では相変わらず 特選ブランドの販売が好調であり、売上全体では前年 比で40%の増加となっている。
	百貨店(宣伝担 当)	お客様の様子	・飲食店の閉店は午後9時であり、まだ平日の入店は 厳しいが、週末に来店する客がかなり増えている。前 年に春夏物を購入していない客も多く、たんす在庫が 不足していることから、来店客の購買意欲は高い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（特選品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、来客数が増加している。2月に外出を自粛していた客による購買が、売上の増加要因の一つとなっている。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・来客数の推移としては、2年前に比べて1月が21.6%減少で、2月が13.6%減少、3月が14.6%減少と、催事などの特殊要因を除くと良くなってきている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・前期よりも各種の実績が良くなっている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・来店客が割と多かった。お彼岸もあったため、果物がよく売れている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除で、少し動きが出てきたように感じる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比で8%、売上は5%回復してきている。緊急事態宣言の解除後はテレワークが少し減っているようである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言も解除となり、周辺の昼間や夜間の人口も少し戻ってきたため、来客数が増えている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、旅行者などが戻ってきている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・暖かくなり、人出が増えてきている。
		コンビニ（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍が続く中であるが、少しずつ外出や旅行などに出掛ける人が増えているように感じる。しばらくの間、ほとんど見られなかったキャリアを引いた客も、多く来店し、買物していくようになっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が全国で解除され、来客数は激増している。決算セール開催もあり、購買意欲はかなり高まっているように感じる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・学生や社会人、単身赴任などのシングル需要によって景気は上向いているが、新型コロナウイルスの影響で、例年と比べて動きは少ない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の動きがやはり活発になってきている。
		一般レストラン（企画）	販売量の動き	・今月の売上は前年比で90%程度まで戻ってきており、前月よりも8%程度アップしている。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・2月末で緊急事態宣言が解除され、3月5日から営業を再開したが、3月の販売量は例年の半分程度にとどまる見込みである。ここへきて週末は例年の8割程度に回復してきたが、平日はまだ例年の約半分である。
		都市型ホテル（販売促進担当）	来客数の動き	・客室の稼働率は、初旬は20%台であったが、中旬には30～40%台になり、下旬は27日に88%となるなど、更に良くなっている。単価も少しずつアップしてきている。また、レストランのディナータイムは12日から営業を再開したが、21時までの営業の時短要請もあるなかで、週末はほぼ満席になるほど、にぎわいをみせている。ランチタイムも前月に比べて、来客数が増えている。
		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で3月7日まで休業していたが、再開後は徐々に週末の稼働率が回復している。緊急事態宣言の解除後は、ターミナル駅周辺の人出が増えている。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・大阪府に出されていた緊急事態宣言が2月末で解除されたことに伴い、宿泊稼働率は3月に入ってから徐々に上昇し、2月よりも約30%高くなる見込みである。またレストランについては、営業時間の短縮が続いているが、2月の2倍近い売上となっている。宴会についても、2月に比べると2倍以上の売上で推移している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・少し良くなっているように感じるが、新型コロナウイルスの感染者数が増えてくると悪くなる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、年度末の歓送迎会が増えるなど、衰えている経済の歯車を一丸となって動かそうという雰囲気がある。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・インターネットサービス関連の売上は、大幅な増加はみられないものの、堅調な増加傾向が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（社員）	販売量の動き	・繁忙期であるほか、緊急事態宣言の解除もあり、来客数や販売額が伸びている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによるデジタルシフトへの影響や、決算時期であったことから、3月は受注が増えている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、回復傾向にはあるものの、その日を境に劇的に何かが変わったわけではない。もう少し長いスパンでの回復が必要である。
		観光名所（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除となり、若干ではあるが来場者が増えている。
		観光名所（経理担当）	お客様の様子	・今月は緊急事態宣言が解除されたタイミングであるため、外出の意欲が高まったと考えられる。また、月末に主要店舗をリニューアルオープンし、そのキャンペーンも行っているため、来場者が多くなっている。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	来客数の動き	・2月末に緊急事態宣言が解除され、明らかに来客数が増えてきている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費者の購買意欲は低下しておらず、逆に上昇しているように見受けられる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場への来場者数は、前年の3月が新型コロナウイルスの感染初期で対応が慎重であった。今月は前年比でプラスとなるなど、客足は戻りつつある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・入出は少し良くなってきたが、買物をする人が少ない。夕方以降になると入出が急減する。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて、月の初めから来客数の伸びがはっきりとみられた。客は買物をするというよりも、世間話をするために来店してきたように感じる。マスクを着けて距離を取り、人と話をする大切さを感じた月となり、昔の駄菓子屋のように世間話に花が咲いている。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・年度末の3月は、毎年忙しい時期となる。今年は新型コロナウイルスの影響はあるが、それなりに販売成績は上がっている。問題は新年度であり、商談も少ないため不安である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で来客数の増加を期待していたが、大きな変化はなく、停滞したままの状態である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大し始めてから、来客数、販売量共に大きく減少している。緊急事態宣言が解除され、少し客足が戻ると期待していたが、再び感染者が急激に増え始めている。仕方がないとはいえ、また小売店への規制が強まるかと思うとつらい。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	販売量の動き	・注文数がなかなか戻らず、ゴルフ場や飲食店の業況も良くないなど、相変わらず厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響を受けているが、徐々にふだんの生活をするようになってきている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は目標達成の見込みである。ただし、前年が新型コロナウイルスの影響で来客数が激減したため、今年の目標は低めの設定となっている。客はこれまで購入を我慢していた反動もあり、来客数は増加しているものの、2年前との比較では2けた以上のマイナスとなるなど、厳しい状況は続いている。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・2月は中旬から気温も上がり、自粛ムードも和らいだが、3月に入って来客数は伸びていない。下旬からは新型コロナウイルスの感染第4波の気配もあるため、消費が低迷している。
		百貨店（服飾品担当）	お客様の様子	・3月に入り、前年は既に新型コロナウイルスの影響が出始めていたため、前年比では大きく数字が伸びたものの、2年前との比較では80%半ばと、まだ回復には至っていない。ただし、インバウンドを除く国内客は2年前に近い状況にあり、新型コロナウイルスと向き合う生活スタイルは、徐々に良い方へ向かいそうである。ラグジュアリー商材も堅調に推移し、特にバッグやジュエリー、時計などの動きが活発化している。一方、化粧品は半年前と比べてかなり回復しているが、完全に回復するまでには少し時間を要する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・依然として新型コロナウイルスの影響は続いており、主力の婦人服、紳士服の売上は非常に低調である。ただし、富裕層の売上はそれほど減っておらず、高級時計や海外ブランド品の売上は好調である。
		百貨店（販売推進担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの発生から1年以上が経過し、店全体の売上は前年を大きく上回っているが、2年前と比べると、3か月前からは余り変化していない。時計や特選輸入バッグのほか、改装を行ったインテリア売場、久しぶりに周年催事を実施した物産展は好調に推移しているが、アパレルは婦人、紳士共に厳しい。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されて、来客数は大都市の店舗を中心に大きく回復している。ただし、売上は新型コロナウイルスの影響が出ていた前年は上回るものの、2年前の水準には遠く及ばず、景気の回復には少し時間を要する。商品別には食品が比較的順調で、2年前の売上実績を上回る店舗も出てきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、以前よりも人の動きは見られるが、2年前と比べると80%台前半の水準である。アパレルなどでは、撤退するブランドがいまだに出てきている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除以降は来客数が戻ってきているが、消費動向は堅実で、必要な物を吟味して購入している。食品の動きは堅調であるが、前年のまとめ買いの反動で、売上の前年比は95%前後にとどまる。食品以外ではフォーマル、学校関連が戻ってきているが、化粧品やトラベル関連は回復には程遠い。一方、富裕層の消費は活発であり、百貨店はスーパーよりも回復が著しい。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの発生から1年が経過して、状況が落ち着いてきており、3か月前と比べても横ばいと判断している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、飲食店への営業時間の短縮要請は続いており、内食傾向に変化はみられない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・飲食店やコンビニの売上、来客数に変化がみられない。緊急事態宣言は解除されたが、オフィスの人々の動きが感じられない状況が、各種の数字に表れている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・暖かくなってきて、近隣の公園で休みを過ごす人が増え、土日などの来客数がかかなり多くなっている。ただし、新型コロナウイルスの感染者数も増えているため、一時的な増加となりそうである。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの危機感も薄れ、外出する人が増えているが、景気が上向き気配は感じられない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前に比べると横ばいか、少し良くなっている。売上は前年比で少しプラスとなっているが、2年前比では、まだまだ厳しい状況が続いている。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍への心配が以前よりも高まっており、消費者の行動は慎重である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ようやく売上が新型コロナウイルスの発生前の水準に戻ってきた。ただし、感染が収束したわけではないため、売上の金額にも流動的な部分があり、将来に対しては不安が残る。
		乗用車販売店（営業企画）	お客様の様子	・例年と比べても動きが悪く、売上は前年比で20%以上減っている。
		その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・外食業の客が大半であるが、今は緊急事態宣言が解除されている状態のため、前月よりも良い状況である。
		その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第4波により、感染者数が増えつつある。客の様子を見ても、購買意欲は高まっていない。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・関西は緊急事態宣言が2月末で解除されたほか、3月になって暖かい日も多く、桜の開花も早いため、時短営業や休業をしていた飲食店で動きが戻りつつある。今後は新型コロナウイルスのワクチン接種などで、感染者数は減少に向かう。生活必需品を販売している当社では、花粉症関連の動きは良いが、その他の商品には大きな変化がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ドラッグストア] (店員)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、休日に買物に来る人が減っている。恐らく自粛中にできなかった旅行の再開もあると考えられる。乗り物酔いなどの薬にも、動きが出始めている。
		その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染対策が定着し、通常の営業に戻っても来客数は増えず、売上は低迷したままである。
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (経理担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後に人や物の移動が増えた結果が、まだ数字として出ていない。
		その他小売 [インターネット通販] (企画担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、売上が大きく落ち込んでいた前年に比べれば、30%程度増えているが、感染の第4波も懸念されるなか、回復の動きは期待したほどではない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後、営業時間が1時間長くなると、飲食店の利用者や予約客は徐々に増えた。それに伴い、新型コロナウイルスの感染者も増えてきた。日中の時間帯、特に週末は人出が多く、感染対策をしながら外出しているせいか、物販での買物客が多い。また、オープンテラスのある飲食店での利用は多いが、それ以外では来客のばらつきが大きい。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、全く改善する見込みがない。
		都市型ホテル (管理担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により、食堂は売上が徐々に増えてきているが、宴会、宿泊は様子見の状態が続いている。また、婚礼は前月に続き、規模の縮小が目立っている。
		旅行代理店 (店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後も、来客数や販売額は大幅には増えていない。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・春の観光シーズンを迎えたが、花見や卒業旅行が中止となっている。行動の自粛要請について、政府が発信を続けているため、旅行の受注はない。
		旅行代理店 (支店長)	お客様の様子	・Go To Travelキャンペーンの再開が延期されるなか、景況感は全く変わらず、客はほぼ諦めムードである。ゴールデンウィークの申込みを夏休みに振り替える動きが続いており、当面の予約も徐々に減少している。
		通信会社 (企画担当)	来客数の動き	・アミューズメント施設の売上が良くない。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	来客数の動き	・イベントの開催回数は増加傾向にあるが、チケットの購入が芳しくなく、入場者数が少ない。新型コロナウイルスの影響で、イベントへの参加をためらう傾向がみられる。
		住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・不動産に関しては、ホテルや商業開発用地は購入意欲が低い。その分、物流、住宅用地は新型コロナウイルスの影響も受けず、購入意欲は高い。
		住宅販売会社 (総務担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、展示場への来場客が減少している。Webでの折衝を行っているが、時間が掛かる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介] (経営者)	お客様の様子	・不動産取引に関する変化はみられない。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	お客様の様子	・新築住宅市場は、引き続き活況となっている。購入予算が足りない客もみられる反面、予算が十分な層も動いており、市場全体は好調が続いている。
		一般小売店 [珈琲] (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言前に比べるとまだ悪い。直営店の来客数も戻りつつあるが、客単価が低い。卸売の販売額もやや悪い状況が続いている。
		スーパー (経営者)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、客の買上点数が今までよりも若干落ちている。家庭での内食から、外食に少しシフトしているとみられ、酒、米などの動きが余り良くない。
		スーパー (店長)	来客数の動き	・外食系のテナントの来客数が前年を割り込む日が多く、前年からの回復の動きが弱い。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・まとめ買いや、高額商品の販売が減少傾向となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	単価の動き	・家での飲食が外食に戻り始めたと感じる。その分、小売店での食料品の需要が、新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあると感じる。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルスの影響で、備蓄用やまとめ買い、巣籠り需要で売上が一気に増えた。今年は特需もなくなり、前年の増加分がそのままマイナスとなりつつあるなど、厳しい状況にある。自力での底上げが必要で、低価格品ではなく価値のある商品をいかに紹介し、単価のアップを図るかが重要となる。
		スーパー（社員）	単価の動き	・当社のような食品中心のスーパーは、新型コロナウイルスの影響が内食需要を高め、売上にプラスとなってきた。ただし、その影響が一巡したこともあり、今月になって客の買上単価が低下している。この傾向はしばらく続きそうである。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は近隣にスーパーがオープンし、来客数が減っている。それに加えて、緊急事態宣言の解除で在宅勤務が減ったため、来客数の減少につながっている可能性もある。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・住宅リフォーム関連では、客の購買意欲はあるにもかかわらず、今は新型コロナウイルスの影響もあり、派手な動きは避けたいという感覚が強いと感じる。商談がまとまってくるにつれて、ご近所を気にするようになり、購入の熱が冷めてしまう。今の時期は、自分のことも優先したいが、周囲からの見られ方も大事であると実感している。
		家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・巣籠り需要が落ち着き、販売量が減少してきている。新生活需要も、1人暮らしを始める人が減っているように感じる。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・巣籠り消費に加え、新生活需要や携帯電話の新製品需要については、例年どおりみられたが、一過性の動きであり、継続的な消費にはつながらない。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新しいモデルがないことも要因の一つであるが、来客がかなり少ない。
		住関連専門店（店員）	お客様の様子	・コロナ疲れもあり、客全体をみても、何となく元気がない。
		その他専門店【医薬品】（販売担当）	競争相手の様子	・閉店のほか、店舗を縮小する動きが多い。
		その他小売【インターネット通販】（経営者）	販売量の動き	・この1年間は新型コロナウイルスの影響が続くなか、商店街の商店はなす術もなく、従来どおりの商売を続けてきた。客の買い方が変化している点を無視しており、結果として客を逃している。
		その他小売【インターネット通販】（オペレーター）	販売量の動き	・新年度が始まるが、例年よりも受注量が少ない。また、マスクなどは値下がりしているにもかかわらず、反応が少ない。
		観光型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・街がにぎやかになってきている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、客は動き出しているが、3か月前と比べるとまだまだ悪い。
		都市型ホテル（管理担当）	来客数の動き	・直前になるまで宿泊予約が動かない。受注した宴会も、直近でキャンセルとなる状態が続いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍による外出の自粛傾向は依然として続いている。客の乗車機会の減少も続いており、営業収入の減少に歯止めが掛からない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ふだんの動きは余り良くなく、駅の待機場所や無線の数もそれほど多くない状態が続いている。ただし、緊急事態宣言の解除後は、繁華街には多くの人出がみられたが、急な雨などを除いてタクシーの利用は少ない。
		美容室（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が再び拡大しつつあり、来客数に影響が出ている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅の購入を希望する客が、所得の関係で住宅ローンが組みにくくなってきている。
		その他住宅【住宅設備】（営業担当）	お客様の様子	・エレベーターの維持管理に必要な、数万円の出費を渋る客が出てきた。よほど生活が厳しいのかと感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、乗客数がどんどん減っている。このままでは以前の事業規模を維持するのは難しく、今後は店舗を縮小していくしかない。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月末に緊急事態宣言が解除されたが、10日頃までは様子見の状態であった。その後、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるに伴い、客足が遠のいてきている。
	×	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・具体的な購買計画のある、遠方からの購買意欲の高い客がめっきり来なくなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後は、近隣の桜並木のお陰もあって、花見帰りの客がみられた。ただし、徐々に新型コロナウイルスの感染者数が増え、来客数が見るみる減少している。
	×	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	販売量の動き	・一向に業況が上向かない。
	×	旅行代理店（役員）	それ以外	・緊急事態宣言は解除されたが、Go To Travelキャンペーンの再開延期もあり、客は申込みを控えている。海外旅行の回復も当面は期待できず、八方ふさがりの状況である。
	×	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は8853円で、3か月前の1万236円よりも下がっている。
企業動向関連 (近畿)		-	-	-
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・外食向けは引き続き苦戦しているが、気候も良くなって人出が増え、一部の量販店向けの家庭用商品は動きが良くなっている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の出荷量が増加しているほか、輸出用では中国向けが好調である。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月の受注量にも大きな変化はなく、荷動きは活発である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・多くの業界、特に半導体関連の市場には何かと動きがあり、引き合いや受注が増えている。新型コロナウイルス禍は相変わらず厳しいが、人がそれに慣れてきたと感じる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上が集中的に伸びているなど、状況は良くなっている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月に入り、週を追うごとに首都圏からの人の流れが増えている。その効果もあって、大阪を中心に各駅の店舗の業績は着実に回復傾向にある。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除となり、人の動きが少し増えているが、飲料水の売上は余り伸びていない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末のせいか、月末に近づくにつれて、受注量が減少している。部品の調達が遅れ、納期を4月に遅らせる取引先もみられる。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・コスト削減の動きによって受注量は減少傾向にあるため、状況は変わらない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売額の動きは非常に不安定で、多少良くなったかと思えば、また悪くなるといった動きを繰り返している。特に、飲食店やホテル向けの家具メーカーなどは、緊急事態宣言や新型コロナウイルスの感染者数による影響が大きいため、受注が安定しない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・期末の駆け込み受注が入り、売上の帳尻合わせに貢献している。ただし、先行きは不透明感が強い。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、新型コロナウイルスの変異種の増加もあり、感染者数が下げ止まっている。感染第4波の可能性もあるなかで、先行きが不透明な状況にあり、受注量も見通せない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この1年は売上が激減しており、今月もその傾向は変わらない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・大型テレビや洗濯機など、比較的単価が高い商品の販売が堅調であり、全体的にも販売が大きく鈍化している商品はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響がある取引先でも、体力のある企業は先を見据えた積極的な工事を行い、そうでない取引先は工事を凍結、延期する動きが多い。新型コロナウイルスによる打撃を受けても、体力の有無により、対応は二極化している。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・例年は人の移動が増える時期であり、多少の動きは見られるが、今年は鈍いように感じる。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いはあるが、受注になかなかつながらないため、状況は余り変わらない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・例年この時期は忙しくなるが、新型コロナウイルスの影響で引越しが分散しているため、家具の配達も平月並みとなっている。
		金融業（営業担当）	それ以外	・大阪で新型コロナウイルスの感染者数が増えており、時短営業の延長などが気懸かりである。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・緊急事態宣言が解除されたからといって、すぐに誰もが購買に走るわけでもなく、やはり夏以降に徐々に回復すると予想される。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、スポンサーが集客用の折込チラシの発行を控えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体、Web媒体共に、広告売上は前年並みであるが、2年前の水準は下回っている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量の動きには、余り変化がない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、新型コロナウイルスの感染者数を重視する取引先もあり、情報収集のための訪問がなかなかできない。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・3月の受注量は前年比で15～20%減ったほか、原材料である綿糸の価格が高騰しているが、価格改定の要請も需要の状況から難しく、採算は更に悪化している。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・緊急事態宣言は解除されたものの、感染者数の減少にはつながっていない。今後も消費マインドは冷え込んだ状況が続くと予想される。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の影響が残り、3月までは広告出稿を控えている取引先がまだまだ多い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、商店街では本格的に閉店や撤退する店舗が増えている。これまでは給付金などで資金をつないできたが、いよいよ先がみえないこともあり、見切りをつけざるを得なくなっている。商店街では、Go To 商店街キャンペーンなどで起死回生を図るつもりであったが、集客を伴うイベントは全て中止となっており、意図した対策が実施できていない。
	x	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスによる影響が、アパレルや飲食関連で広がっている。空き店舗が増え、その後の入居も決まらないことから、賃料が下落し、景気が悪くなっている。
	x	経営コンサルタント	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が全てといえる。感染の収束がみられないなか、販売も生産もうまくいかず、周囲の小売店が倒産する状況が相次ぐなど、改善の方向性はみられない。
	x	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染収束が見通せず、非常に不安定な状況である。
雇用 関連 (近畿)		-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・3か月前と比べると、派遣の依頼件数が増えている。前年比ではまだ戻り切っていないものの、回復傾向にある。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス関連での書類のチェックや、求人での電話対応が増えている。
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求職者の動きが活発化している。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・年度末の特需が例年よりも少なく、受注は増えもしないが、減りもしないという状況である。
	アウトソーシング企業（管理担当）	それ以外	・仕事の依頼の減少が続いている。	



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、時短営業が継続し、Go To Travelキャンペーン再開の見通しも立っていない。飲食業や旅行、観光業の経営は回復には程遠く、雇用を維持するのに精一杯の状況にある。来年度の大企業の新卒求人は増加に転じているようだが、中小零細企業が主体の関西では、そのような余裕は感じられない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・大阪の有効求人倍率は前月から横ばいとなった。なお、新規求人数は前年比で14か月連続の減少となったが、新規求職者数は4か月ぶりに増加となった。一方、会社都合の離職者が11か月連続で増加したほか、在職者が8か月ぶりに増加となっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・前年、今年の緊急事態宣言共に、新規求職者数の減少につながったが、緊急事態宣言の解除に伴い、増加に転じている。その結果、2月までは新規求職者数は減少したものの、再び3月になれば求職者が増える可能性が高い。今後は当分、離職者が増える傾向になると予想される。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ数か月は、新規求人倍率が2倍を超えている。求人数は底堅く推移している状況であり、景気に変化はない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雰囲気としては景気が回復基調にあるものの、売上などが回復している実感はない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・依然として、求人数は前年比で約3割減少という状態が続いている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・新卒採用市場では、企業は年間の採用人数を決めているため、短期的な変化はみられない。前年は緊急事態宣言下であり、選考活動がストップしていたが、今年はその分、企業の動きが早いほか、オンライン化も進んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・緊急事態宣言の解除後は、有料道路の交通量が大幅に増え、混雑度が顕著に上がっている。これに伴い、市街地での密集度も半端ではなくなっている。特に、春休みの影響もあるが、若い人の行動がエスカレートしているように感じる。新型コロナウイルスのワクチン接種については、経済活性化のためにも、高齢者よりも働き盛りの人への接種を望む。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・新年度を迎えるが、全く忙しくなっていない。緊急事態宣言が解除されて心理的に余裕が出てきたのか、前向きな案件が増えつつあったが、徐々に減少している。新型コロナウイルス対策ということで、各社とも慎重な姿勢を崩すことなく、現状を維持している。ただし、景気の回復時は取りあえず派遣社員の活用で乗り切ろうとしているため、成約にはつながらないが、問合せは増えつつある。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・ここ数か月、前年の80%前後で推移してきた求人数が、3月に入って大きく落ち込んでいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・緊急事態宣言は解除されたが、新聞広告の推移をみると、まだまだ景気回復の兆しが見られない。
	×	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・就職活動中の学生によると、面接の難易度が上がっているようである。

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (中国)		一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス慣れが進んだのが例年どおり忙しい。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・卒業、入学などの祝いで外食利用の機会が増加する時期とGo To Eatキャンペーンの利用期間が重なり、売上が大幅に増加している。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・2月に時短営業も解除され、来客数も徐々に増加傾向にあり、3か月前の年末と比べると、かなり改善している。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、県外からの来客数も増加している。新年度を控え、人の移動が期待される。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの発生から1年が経過し、販売量が前年並みになっている。年配の人が肌着をまとめ買いする動きが出ているが、重衣料は単品でしか動いていない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス発生前の状況までには戻っていないものの、特に中旬以降、週末のファミリー層やヤング層の来客数が多くなっている。卒業式や卒園式が実施されているため、オケージョンや返礼ギフトの需要も出ている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスが落ち着いてきていることや、気候が良くなっていることもあり、来客数が徐々に回復している。非常に売上の落ち込んだ婦人服も改善傾向にある。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で、県境を越えた買物ができないため、地方店舗での地元住民の消費は、かえって、上向き傾向にある。また、株価の上昇も消費に好影響を与えている。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・まだまだ厳しい状況ではあるが、2月後半から3月にかけて新型コロナウイルスの感染者数が減少したことから、客の購買心理が改善、来客数も少しずつではあるが増加してきている。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・来客数や売上が前年を上回っている。また、イベント動員も新型コロナウイルスの影響を余り感じられなくなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・週末に限らず、平日も来客数が回復してきており、買い回り金額も増加している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・来客数、客単価共に前年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は前年割れであるが、客単価が回復傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年割れであるが、回復傾向にある。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・週末の人の動きが良くなり、来客数や売上が増加している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・経済活動の再開や各種イベントの増加で、人の流れが一時期と比べ良くなっている。日中の来客数も前年を上回ってきており、特に週末にその傾向がみられる。
		衣料品専門店（代表）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除で少しは売上が戻ってきているが、自粛ムードが続いているため、元に戻るには時間が掛かる。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・3月の販売量は前年比115%と、徐々に良くなっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・客の動きも良くなり、購買意欲も感じられる。一時のひどい状況と比べると、景気は良くなっている。
		その他専門店【和菓子】（経営者）	来客数の動き	・人々が新型コロナウイルスに慣れてきたのが、人出が増えている。
		その他小売【ショッピングセンター】（支配人）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルス感染者数も落ち着き、気温の上昇や春休みに入ったことで、客の動きも良くなってきている。夕方以降の来客数は依然として少なめであるが、徐々に増加しつつある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・自粛の緩みもあり、来客数は増加傾向にある。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・前年と比べるとまだまだであるが、緊急事態宣言が解除され、3か月前と比べてやや来客数が戻っている。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除を機に、観光客は少ないが、ビジネス需要が増加し、宿泊の稼働率も50%台に戻ってきている。レストランは営業縮小をしているが、卒業、入学、入社などイベントに絡む予約が増加している。4月からはGo To Travelキャンペーン再開を期待し、営業縮小を解除し全面営業に戻す予定である。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・春休みに入り、プロ野球の開幕や桜の開花など街に出かけたくなるような雰囲気が出てきている。地元客のレストラン予約も徐々に回復してきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスが完全に終息したわけではないが、ワクチンの接種が始まり、都心部の緊急事態宣言も解除され、客の自粛意識が弱まりつつあるようで、街中の人通りも増えている。それにより売上も多少増加している。
		タクシー運転手	単価の動き	・売上が2～3割減少している。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・放送・通信サービスの新規加入件数が増加している。
		観光名所（館長）	来客数の動き	・関西3府県の緊急事態宣言が解除され、気候も良くなってきたことで、行楽地への人出が増加しており、来客数も増加傾向にある。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対応で予約制となっているため、来客数が大幅に増加するにはまだ時間が掛かる。ただ、来客数は増加してきている。
		住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスが落ち着いてきており、景気はやや良くなっている。
		住宅販売会社（営業所長）	販売量の動き	・客単価は減少しているが、来客数は微増である。マイホーム計画や購入の動きは徐々に回復している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の人通りは少し元に戻っている。
		商店街（理事）	お客様の様子	・緊急事態宣言は地方都市には直接関係ないかもしれないが、マスコミによる報道で自粛ムードが続いている。ただ、緊急事態宣言解除後、ストレス解消のために買物に出掛ける動きもある。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・人出は増えているが、商品の購入には結び付いていない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、業界間で業績に極端な格差が生まれている。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響で、食品スーパーは好調である。来客数は前年に及ばないものの、客単価は前年を上回っており、売上も好調に推移している。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	来客数の動き	・暖かくなってきて、来客数が多少増加してきている。商店街の客もゆっくりと買物をしている。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・前年開催できなかった物産展の開催やサテライトショップのオープンで売上は増加したが、観光部門は低調で、全体では新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大幅に落ち込んだ前年をやや上回る程度である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が新型コロナウイルスの影響が開始した前年と比べると上向いているものの、一昨年よりは減少しており、厳しい状況が続いている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・旅行に行けない反動もあるのか、数百万円のジュエリー等が売れている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は前年並みで推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で来客数の減少が続いており、買上点数は微増であるが、来客数の減少を補えない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルスによる大きな特需があり欠品が続く状況だったが、競合店が増加し、買い回り傾向が出ている。固定客の来店頻度も減少しており、まとめ買いになってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比88.2%となっている。特に週末の来客数の減少が大きい。観光客や家族連れの客が戻らない状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年は春先から商品がよく売れるが、現在は余り売れていない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・街の人出が少なく、活気がない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は減少しているが、客単価は上昇している。
		家電量販店（企画担当）	単価の動き	・来客数は前年を上回っているが、客単価が低下しているため、売上は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・3月の決算期で販売台数がもう少し伸びる予測だったが、前年並みで推移し、大幅に伸びていない。新規客も余り増加していない。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [時計] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍ということもあるが、来客数が少ない。人口減少も関係あるのかもしれない。
		その他専門店 [土産物] (経営者)	来客数の動き	・団体客がほとんどなく4月もバスの乗り入れ予約は少ない。個人客で何とか維持しているが、土産物の売上は下げ止まっている。
		その他小売 [ショッピングセンター] (管理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが落ち着いてきて、2月と比べ来客数が増加してきている。ただ、県外ではまだこう着状態が続いており、気を許せない状況である。
		高級レストラン (事業戦略担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、来客数が少し回復するのではないかと予想していたが、今のところ変わらない。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、ようやく人の動きが出てきている。
		観光型ホテル (副支配人)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で宿泊客は減少しており、宴会利用も全くない状態が続いている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・1都3県の緊急事態宣言が3月下旬に解除されたが、ビジネス、観光共に自粛傾向が継続し、低迷している。自治体による地域限定の宿泊支援策により一部に増加傾向がみられるものの、温泉旅館に集中しているため、効果は限定的である。
		旅行代理店 (経営者)	来客数の動き	・旅行業の景気は回復していない。
		旅行代理店 (支店長)	販売量の動き	・まだまだ旅行を始めレジャーを楽しむような雰囲気ではなく、Go To Travelキャンペーン事業も停止しており、復活の兆しはない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・暖かくなり、昼の乗車率が良くなっているが、夜の乗車率が良くないため、変わらない。
		放送通信サービス (総務経理担当)	お客様の様子	・利用料の支払延滞や回収状況を注視しているが、大きな変化はない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが落ち着いたものの、先行き不透明感があるため、景気は下げ止まっている。
		通信会社 (工事担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が続いており、景気は変わらない。
		通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが落ち着いてきているものの、ワクチンへの期待が大きいわけではなく、消費行動は抑制されたままである。
		通信会社 (経理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響でリモート等が増加しており、インターネット環境を必要としている客がいるため、特に変化はない。
		テーマパーク (管理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの先行きが不透明なため、景気に変化はない。
		ゴルフ場 (営業担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言は解除されたが、団体の予約が少ないため、予約状況は良くない。
		競艇場 (企画営業担当)	販売量の動き	・売上がほぼ横ばいである。
		設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、客が住まいに関する支出を控えている。
		設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・ガソリン価格の高値変動が影響し、木材価格や建材価格も値上がり傾向である。住宅建築の需要も好転する兆しがなく、厳しい状況が続いている。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・イベントなどは新型コロナウイルス対策を徹底して開催しているが、依然として、前年の8割くらいの来客数で推移している。
		商店街 (代表者)	単価の動き	・子供服に対する需要がなくなり、売上が低迷している。
		スーパー (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスが発生して以降、売上は前年を上回っていたが、1年が経過し、売上は前年を大幅に下回っている。
		スーパー (業務開発担当)	来客数の動き	・来客数は微増であるが、新型コロナウイルスが落ち着いてきて、まとめ買いが少なくなっている。
		スーパー (販売担当)	販売量の動き	・売上は前年比104%、来客数は前年比118%となっている。長期にわたる新型コロナウイルス対策の自粛の疲れと慣れからか、客の流れが再び郊外から中心部、路面店から大型ショッピングモールへと戻る傾向がある。この時期の核である引っ越しや新生活関連の商戦も例年と比べて低調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・客単価が徐々に低下している。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・客単価の上昇により、売上は前年を上回っているものの、来客数は前年を下回っている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客の購買意欲が低下しているため、景気はやや悪くなっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・3月の売上は前年を下回っている。巣籠り需要がなくなり、通常商品の客単価が低下している。先行き不安もあり、客の購買意欲も低下している。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で外出者が減少していることもあり、来客数が減少している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・例年の春商戦より販売量が少ない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・県民が新型コロナウイルスに感染しないように最大限の注意を払っているため、街に買物に出掛ける人が非常に少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・日中はまだしも、夜の動きは良くない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・一部の業種で景気が回復しているようだが、商店街では景気は良くなっていない。
	×	商店街（代表者）	販売量の動き	・3か月前の年末に比べると来客数、販売数共に減少している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・接待を伴う飲食店業界は新型コロナウイルスの発生源のような捉え方をされており、正に最悪の事態が避けられなく、3月末で廃業する。
	×	通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客に新しい商品を買おうという意欲がみられない。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の動きが多少良くなっているが、飲食業等の景気は元に戻っていない。
企業 動向 関連		通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・データセンターやIoTに関する引き合いが以前と比べ明らかに増加してきている。年度末という理由もあるかもしれないが、販売量は確実に増加している。
(中国)		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・景気は徐々に良い方向に動き出している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や生産量が堅調に伸びてきている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・年明け辺りから、徐々に受注量が増加している。
		輸送業（総務・人事担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が堅調に推移している。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、テレワークが推進され、全産業で電子商取引が加速している。特に医療分野や教育分野では、サービスのオンライン化で、ビジネス環境が変化している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・1～2月の受注量は前年の6割程度と厳しい状況であったが、3月に入り9割程度まで戻ってきている。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・対面型業務やマーケティング関連分析業務等、一時延期したり、中止したりしていた業務が回復傾向にある。
		農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が続いているため、相変わらず厳しい状況が続いている。
		繊維工業（監査担当）	受注量や販売量の動き	・全国的に前売り状況はほぼ例年並みに推移している。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注や売上は前年を下回っているが、ここ数か月は安定して推移している。
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・客の動きに変化がない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注価格や販売価格の動き	・金属価格の高値安定で収益を確保している。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が生産能力の40%程度しかなく、雇用調整助成金を活用して週1回帰休を行っている。この状況は3か月前と変わっていない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が例年を下回る状況が続いている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注予定の物件が先延ばしになることはあるが、失注とはなっていない。予定技術者のやりくりは必要なものの、繁忙な状況の改善につながっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響を継続的に受けている企業は少なくないが、業況が著しく悪化している企業は目立っていない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・地元の自動車完成車メーカーの世界販売は、期待した新型車が伸びず低調が続いている。このため、系列の自動車部品メーカーの受注は、黒字確保ができていないもの、ピーク時の9割程度にとどまっている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数や成約件数がほぼ横ばいとなっている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注量が減少し、販売量も増加しない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・食事が徐々に家庭内から外食等に移っているのか量販店からの注文が前月と比べ5～7%減少している。
		食料品製造業（総務担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、外出する人が増加しているが、まだまだ飲食店に対する規制が続き、商品の動きが鈍い。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・回復傾向にあった生産が減少している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で部品価格の値上げ等があるものの、商品価格に転嫁することが難しく、経費の圧迫がある。また、特定の海外拠点において、感染者数が大幅に増加していることから、事業活動に制限が出ている。
	x	コピーサービス業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・年度末特需により年間で受注量が最も多い時期であるが、特需のレベルではなく、通常月を少し上回る状況にとどまっている。
雇用 関連 (中国)		-	-	-
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・各業種で求人数が増加してきている。特に医療系は求職者の動きも活発になってきており、新型コロナウイルスの一段落を受けて、シビアに反応していた医療従事者も動き出している。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	求人数の動き	・新規求人数は前年並みに回復してきている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が解除され、少しずついろいろな企業が稼働し始めている。工場などは出勤規制があり、フル稼働ができないため、部品がなかなかこないなどの理由で景気は低迷していたが、それも徐々に解消されている。新車のディーラーは苦戦しているが、中古車ディーラーは活況を呈している。イベントの中止に伴いダイレクトメールの発注も激減していたが、徐々に復活の兆しを見せている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス発生から1年が経過し、地域の企業が、感染対策、雇用対策、業態変更等の業務上の対応を進めてきたことから、落ち着いた様子を見せており、新たなスタートの動きを感じる。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・採用意欲を失っていた輸送用機器関連メーカーが少しずつではあるが人員を増強し始めている。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	求人数の動き	・製造現場の求人数が増加しており、新型コロナウイルス禍で派遣を利用しなくなった企業も再度、派遣会社を通じて人材確保に動き出している。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・新卒対象の求人数が前年と比べ増加しており、景気は上向き傾向にある。
		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・求人情報、求職者情報は共に前年と比べ増加しているが、成約数が比例していない。双方のニーズに食い違いがあるため、有効求人倍率は上昇しているが、就職にはつながっていない。
		職業安定所（雇用関連担当）	求人数の動き	・求人数が前年を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数を前年と比べると29.1%の減少、有効求人数も前年と比べると22.5%の減少となり、新型コロナウイルスの影響による厳しい雇用情勢が続いている。直近3か月の新規求人数を前年と比べても21.8%の減少、産業別でも建設業、不動産業・物品賃借業、医療、福祉など一部の業種を除いて減少している。2月の有効求人倍率は1.57倍、2月末の新規学卒対象の求人状況を前年と比べると、高卒で求人数が25.3%の減少、大卒等では求人数が24.4%の減少となっている。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響が続いているため、景気は変わらない。
		その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、経済活動が活発化していない。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数は、複合サービス業が前年と比べ9割減少しているのが目立っている。通常、継続して募集している農協関係の求人が控えられていることが大きい。また、宿泊・飲食業でも新型コロナウイルスの影響で求人が少ない状況が続いており、求人全体でも2割の減少となっている。
	x	-	-	-

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策の自粛制限が解除され、段々と客の活動が盛んになってきている。
		通信会社（営業部長）	来客数の動き	・来客数は新型コロナウイルスの発生以前に戻っている。販売数も計画値を上回っている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・飲食店の来客数が数ヶ月前と比べ増えたと感じている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・街中の人通りが少しずつ増えてきており、にぎやかになっている気がする。ただ、新型コロナウイルスの感染状況は微増傾向にあり、再拡大となれば、逆戻りする懸念があるので、不透明な状況がもうしばらく続く。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第3波もおおむね収まり、週末を中心に近県からの来街客、観光客も増えている。気候も春めいてきてにぎわいが出てきた。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が全国で解除となり、多くの人が外出を楽しめるようになったが、第4波が都会だけでなく、地方各地でも確認され始めており、予断を許さない状況はしばらく続く。
		百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルスの影響が一巡したことから、来客数については増加傾向にある。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が徐々に回復している。ただし、感染者数が増加した途端に来客数は減少する。自粛疲れによる半ば諦めのような来客数増加ではあるが、前年の売上を超えてきている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活の準備に伴い、生活家電を中心に販売数が伸びている。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・1年前と比較すれば改善傾向にある。緊急事態宣言が発出されても、一時期のような外出自粛は減りつつある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・やや客足は持ち直しつつある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・2～3ヶ月前と比べたら、やや回復気味で、乗車回数も上昇している。しかし、夜の繁華街は営業を縮小した店が増えたこともあり、客足はふだんの2割程度と聞いている。夜の景気は余り良くない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・暖かくなって、人出も多少増えてきているが、夜については、飲みに出る人は若い子たちが多く、タクシーを余り利用しない客層であり、厳しいままである。しかし、お遍路客の仕事が多少出てきたので、冬よりは少し良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・12月は新型コロナウイルスの感染拡大に対する警戒感から、感染予防意識が高く、人出は縮小傾向が続く。飲食業、サービス業を中心に景気は鈍化した。しかし、都市圏等の緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスに対する警戒感の低下、人の流れの活発化などで、販売量は増加で推移している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに対する警戒感が変わってきたのか、人が大分動くようになってきた。卒業、入学シーズンも重なり店が活気付いてきた。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・夜間営業の店舗におけるクラスター発生が収まって少し客が戻ってきた矢先に、大規模なクラスターが発生して、また人が来なくなった。人通りもなく夜の来客はない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・春は歓送迎会や花見で会食をする機会が多い季節だが、昨春からの新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなり、販売量が激減している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルス禍は一巡したが、感染者の推移は先のみえない状況であり、中食が定着している。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数の前年割れは続いているが、直近では若干増加した。しかし、気温上昇などの季節要因であり、景気とは結び付かないと考えている。
		コンビニ（商品担当）	お客様の様子	・特別警戒期間などがあり、一般客の夜の通行も減っている印象を受ける。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルス禍で不透明な状況が続いている。再拡大したこともあり、来客数が少なく、そもそも外出していないのではないかと推測される。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年と比較して107%程度となっているが、前年は新型コロナウイルスの影響が強く出たため、それを加味して考えれば、3か月前とそれほど変わらない水準で推移しており、業況が依然として厳しいことには変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車市場は受注台数と販売台数とともに前年並みの推移である。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・売上は前年と同水準であり、緊急事態宣言解除の効果はまだみえないが、人の移動が多くなれば上向きに転じることが予想される。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・今月下旬から新型コロナウイルス感染者が急増しており、戻りかけていた来客数に急ブレーキが掛かった。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ客足が戻りつつあったが、またクラスターが発生し、キャンセルが続出している。しばらくは同じような状態が続くと予想される。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が余り改善せず、Go To Travelキャンペーン再開も見通せないなか、業界は相当厳しい状況である。
		都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスへの警戒感が低下し、一般的には、景気は上向いていると感じている。しかし、第4波を警戒して、外出を控える動きが出ており、来客数は思ったほど伸びないと推測する。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・少しずつではあるが、県民向けの割引等が復活したお陰で客が動き出しており、ビジネス需要も回復傾向にある。ただ、2019年度比で見れば、3月は30%程度である。
		設計事務所（所長）	それ以外	・第4波や大規模なクラスターの発生で、再開していた飲食店が再度休業に陥った。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスは、第4波、第5波と継続すると考えており、ワクチン効果もどこまで期待できるか予測できない。この状況が常態化したなかで、人の流れは変化し、地域や業種によってその影響も大きく異なることから、景気の先行きは極めて読みにくい。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商については、例年と比べて、年度末の注文品の売上が少なくなっている。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・前年の新型コロナウイルス需要でよく売れた商品を中心に、反動が大きい。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	×	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前々月から今月に掛けて大きな変化はなく、厳しい状態が続いている。当県は一時は新型コロナウイルスの感染者が非常に少なかったが、直近では少しずつ出てきており、その影響からか客足が鈍いと感じる。	
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・決算キャンペーンも終わり、来客数、販売量が減っている。	
		観光遊園地（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの特別警戒期間が延長されたことにより、サービス業関係の売上が減少している。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・今月は歓送迎会やイベントが中止になり影響が出ている。	
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月も、初旬は前年比同等であるが、中旬から大幅な減少に転じるという傾向が続いており、来客数が激減している。	
企業 動向 関連  (四国)		税理士事務所	取引先の様子	・顧問先である飲食店の売上がかなり回復してきている。	
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月までの売上高は前年比でややマイナスであったが、3月に入り、全国的に人手が増えた関係なのか、雑貨小売店からの注文が増えている。観光地の小売店からの発注は相変わらず少ないが、当地域にある自社ショップには週末、県外ナンバーの車が増え、徐々に地方の観光地にもぎわっていくように感じる。ただし、当社の都市部にある小売店は相変わらず入出が少なく、商売が成り立たない。	
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが受注量が回復している。緊急事態宣言などの影響を再度受けなければ、徐々に回復していくと判断している。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・私が営む事業では、客からの引き合いが多く、成約件数もやや良くなっている。他の工場関係のメンテナンス等も順調といった情報が入ってくることから、景気は少し上向きになっているのではないかと。	
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が伸びて、一過性の特需に近いが、一部の事業体で受注量や販売量が改善している。	
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・主要客の海外向けの出荷数量が増加し、売上高が2か月連続で前年同月上回った。	
		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・都市部のナショナルスポンサーを中心に下期のCM投下は堅調で、3月の売上は地元だけでなく、全社で前年超えとなった。	
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・当県は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、下げ止まり感がある。	
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末になり納品が増え、売上が堅調である。また、補正予算や工期の平準化等の施策により、手持ち業務も確保されつつある。業界は公共事業量の安定、微増に加え、働き方改革や入札契約方式改善の施策効果が現れてきている。	
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民とも、受注が低調である。	
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・悪い状態が続いているので、変化はない。	
		農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・市場価格は近年のなかでは安値で推移しており、新型コロナウイルスの影響が少し出始めた前年と比べて、卸売価格は90%程度にとどまっている。また、この時期増える業務需要も低調であり、関連商品は80%程度と更に厳しい。	
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・1～2月の受注量は前年7月以来の水準に戻ったが、生産量、売上量共に依然として回復せず、生産調整のための臨時休業は4月まで継続予定である。	
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・第4四半期における取扱物量については発送、到着貨物共にいずれの月も前年実績を下回っている。新型コロナウイルス禍において消費者の意識や生活様式の変化がもたらした影響は大きく、不要不急の外出自粛に伴う電子商取引の拡大を受け、宅配便を利用したB to C物流の需要が増え続けている。一方で、販売店向けの小口積合便を利用したB to B物流の低迷が日増しに顕著となっており、運輸業界内でも取り扱う物流によって、収益格差が拡大している。	
		×	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で海外での商談が長引いており、需要は前年割れが続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (四国)		-	-	-
		学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・2022年に卒業する大学生の新卒採用の会社説明会が3月に解禁され、学生の就職活動が本格的に始まったが、本学への求人数は現時点で前年度とおおむね同じである。今後も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う求人状況の動向等に注視していく必要がある。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・3月に入り求人数が増えてきている。新型コロナウイルスの影響は余りないように感じる。
		人材派遣会社 (営業)	周辺企業の様子	・県内では、新型コロナウイルスの変異種株の影響により、過去最多の感染者数を記録した。いわゆる第4波の到来と位置づけ、繁華街の飲食業への自粛要請がまた強化された。飲食業全般で業務縮小や人員削減など経営の維持に必死な状況である。
		人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・新型コロナウイルスの影響で派遣を終了する企業も出ているが、逆に人手不足の地域には求人があり景気は横ばいを保っている。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・新型コロナウイルスによる景気低迷から回復傾向にあるように感じるが、広告業界を取り巻く環境は変わらず厳しい。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・大卒等求人の受理が始まっており、前年度と同程度の求人が見込まれている。
		職業安定所(求人開発)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大による影響が、様々な産業で出ており、令和2年4月以降、事業所閉鎖や事業縮小等による人員整理を実施する事業所の発生が継続している。令和3年1月になって緊急事態宣言が発出され、都市部から当県への人の移動の激減による影響がしばらく続いている。第4波の襲来ともいわれており、回復するには時間が掛かる。
	求人情報誌(営業)	採用者数の動き	・製造業等の業種では求人数、採用者数共に横ばいだが、サービス業においては求人が大幅に減っている。そのため、全体で見ると景気は悪化している。	
	x	-	-	-

### 11. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		一般小売店〔精肉〕 (店員)	販売量の動き	・飲食店への営業時短要請が解除されてから、飲食店向けの販売量が大幅に増えている。
		百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・全店の売上前年比は、3か月前は89%であったが、当月は107%となっておりほぼ20%の回復になっている。来客数は前年の9割程度であるものの、客単価が上がっている状況が今月の特徴である。また、食品は100%と変わりがないが、衣料品は各店舗110%前後となり、売上をけん引している。
		衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・暖かくなり、緊急事態宣言も解除されたので外出する人が増えている。
		競馬場(職員)	来客数の動き	・来場者が増加傾向にある。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・今月中旬から商店街では通行量が増え、活気が戻りつつある。消費には依然慎重ではあるが、徐々に回復の傾向はみられる。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・3月は、入試や入学、就業、新生活等変動があり、来店客はいつもよりは活気がある。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・年度末からノベルティ関連や卒業祝い等贈答品の特需が大幅に増加している。また、年度末決算の企業の買占めで、小売業の増加傾向が目立っている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言解除に伴い、来店客が増加し、これまで好調に推移していた食品スーパーマーケットやドラッグストアに加え、服飾雑貨やアパレルテナントの売上に改善傾向がみえる。飲食テナントでは、ランチが回復しているものの、ディナーや宴会については厳しい状況が続いている。
	百貨店(企画担当)	販売量の動き	・外商の客を中心に家具や家電、宝飾等の催事が実績から大幅に伸長している。前年でできなかった卒入式も行われ、ギフトを含め順調に推移している。また、前年中止した物産催事も今年は開催しており、旅行に行けない分、多くの客は喜んでおり、計画も達成している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3密防止策を念頭に、店頭催事の再開や学校制服採寸の開始で買い回りもあり、午前の来店客が増えているが、相変わらず午後の落ち込みは回復していない。店頭人気催事のオンライン販売への変更やDM抑制もあり、高齢者を中心に来客数の減少、滞留時間の短縮など集客力の低下が継続している。しかし、催事場やクレジット催事は午前中心に客足が戻りつつある。店頭では依然自家需要の紳士トラッドや家電製品、嗜好性の高い舶来雑貨、時計等は堅調である。催事場からオンラインへ変更の物産催事は好調な受注が続いている。また、周辺商店街でも警戒が続くなか、春の行楽の県外客を含め人通りは増えている。
		百貨店（プロモーション担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、春の卒入学や社内異動、引っ越し等に関連する買物の動きがみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は、前年3月より新型コロナウイルスで上振れした月であったが、販売数量が伸長している傾向から、景気はやや良くなっていると判断している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後は、引き続き夕方の来客数を中心に増加傾向である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後と春先により人の動向が多いため景気は良くなっているが、リバウンドが懸念される。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は、前年より伸び悩んでいるが、買上点数と客単価は前年を上回っており、売上も全体で前年より高くなっている。夏に向けて、このまま進捗すると考えられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・従来と同じような年度末になっており、若干安心している。
		住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・例年この時期は転居や就職、進学等で寝具需要が高まる。新型コロナウイルスの影響で地元志向が高まるのではと危惧していたが、想定したほどではなく、例年と同様に需要が多い。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・客の動きは前年と変わらないが、店頭への来店はやや減少している。反面、巣籠り需要の影響で1度に購入する量が、若干増えている。客単価が上昇しており、日によっては販売量も増加していることから、前年と比較すると若干良い傾向になっている。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによるマイナスの影響が継続しているものの、ワクチン接種といったプラスのニュースも出ており、当県が逼迫した状況でないため、回復基調にあるといえる。また、前年は3月から新型コロナウイルスの影響が本格化していたこともあり、売上比較でいうと110%程度の伸びで進捗している。アニメ映画のヒットもあり、前年比では集客が伸びており、物販やサービス、飲食と業種関係なく伸長している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当県は、新型コロナウイルス感染がここ数日発生しておらず、随分落ち着きを取り戻しており、週末には客が徐々に戻っている。感染対策もしっかりと継続している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスに慣れてしまっているのか、夜の街に若者が目立つようになっている。夜の街にはマスク姿も減少しており、気が緩んできているようで危惧している。
		その他飲食の動向を把握できる者【酒卸売】（経理）	販売量の動き	・3か月前の緊急事態宣言期間と比較すると、売上は1～2割の改善をしている。感染者の増加やクラスターの発生による局地的な落ち込みはあるが、人の動きは出ており、今後良くなると予想している。
		観光型ホテル（総務）	販売量の動き	・館内のレストランを中心に客足が戻り、単月の売上は今期3番目になっている。宿泊客も少しずつではあるが増加している。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、動きはまだ鈍い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、当地では感染者数が比較的少ないとはいえ、催物が多い時期でもあり、若者中心に人出も徐々に増加し、タクシーの売上も若干増加傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・Webからの予約や、割引券のない定価の客が徐々に増えつつある。税込み表示を3月より実施しており割高感を心配していたが、今のところ問題なく推移している。
		美容室（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染対策をしながら、客が来店するようになってきている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・退院した客の利用が増加しており、緊急事態宣言解除によりサービスの中止が減少している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・人が動く季節になったものの、緊急事態宣言により人の動きが悪くなっており、外出するための衣類の売上が全く良くならない。まだまだ警戒心が強い状況である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が継続している。商店街では高齢者が客の6割を占めているが、近隣のスーパーマーケットで買物を済ませる人が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3月は繁忙期であるが、残念ながら緊急事態宣言が解除されても来街来客数は戻っておらず、1月と比較すると若干良くなっている程度で、大変厳しい状況が継続している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、少しずつ客の来店が戻りつつあるが、一昨年と比較しても程遠い来客数である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・暖かくなり、人の流れが良くなっているように見受けられるが、新型コロナウイルス第4波も予想され、中心客である50～60歳代の動きが非常に悪い。特に、アパレル産業が非常に厳しい状況である。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が発生したばかりのときは、客はみえない恐怖で買物する状況ではなかったため、来客数も大幅に落ちた。現在は、前年と比較すると回復はしているものの、いまだに必要最低限の購入で、外出や買物に対する慎重さは変わっていない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・店のトレンドに大きな変化はない。食品を中心としているため、まだ新型コロナウイルス対策として外出自粛による需要増が続いているため、好調に推移している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で厳しい状況には変わりない。春の入学式や卒業式があるが、春休みに入っても来客数の増加はない。そのため、客単価上昇を考え、手軽な食事の品ぞろえやデザート、飲料水を充実させているが、売上の急激アップは見込めない。前年も厳しい状況であったが、それを大きく下回っており、深刻である。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍の行動パターンや買物の仕方が定着しつつあり、単身の購入や来店頻度の減少により、自宅で過ごす時間が中心になり、まとめ買いが多い。行楽やイベントでは、グループや家族での来店減少が続いている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、多少人の動きは多くなりつつあるが、売上の回復までには至っていない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除により、来客数が若干増えている。しかし前年と比較すると、客単価は増加しているが、来客数は大幅な減少となり、その結果売上も減少している。一度来店から離れてしまった生活のパターンは、早急に回復する状況にはない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気候は良くなっているが、新型コロナウイルスの影響は依然強く、来街者、来店客共にほとんどない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・若干人々に心のゆとりが出ているように感じるが、それでも外出するにはしばらく時間が掛かる。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除になったことで、人の出入りも見受けられるが、買物は非常に冷え切っている。飲食店ばかりがクローズアップされるが、各小売店やその関連業者も同様に厳しい状況である。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの特需が若干残っており、販売数量や単価共に前年を上回っている。新入学や就職のシングル需要も好調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・巣籠りやテレワーク需要が一段落しているが、これから給付金による特需もあり、今後の新型コロナウイルス感染の状況によって左右される。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が見通せないため、購入に至らないことが多い。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3月末で年度決算を迎えるが、新型コロナウイルス禍の影響を受けながらも、前年並みの利益を確保することが見込まれる。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・今月は、下見のために来店していた客の購入決定が多く、売上は順調にしている。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は上昇傾向である。3月に入り、前年より暖かい天候が続いているため、ドライブ等によるカーケア商材は順調に販売できている。燃料油の販売量は前年並みの状況である。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出や出張の自粛が大きく影響している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・外出自粛が続いているため来店客がない。予約だけで営業しているが、若干の予約が入るだけで、フリーの客は全くなく深刻である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きや予約は増加しているが、まだ不安が残る。
		タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルス禍で、ワクチンが一般にも接種できない限り、今の現状を打開するのはなかなか厳しいと予想される。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3月の売上は、年末からの増加が落ち着いたことで下降状態になっており、低迷したままである。何か対策を考えなければいけないが、新型コロナウイルス禍で客の動向がつかめない状態である。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・このところ若干円安に振れていることもあり、取引先の業績は好影響であるが、当社までその影響が及んでいない。
		設計事務所（所長）	それ以外	・金額は以前と同じであるが内容量が減っており、食料品や生活必需品が高くなっている。また、建築材料の価格も高くなっており、手続は増加しているが対価は増えていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンション販売での来客数は、新型コロナウイルスの影響で相変わらず少ないが、客は物件に興味を持って来店するため、成約率が高くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染による先行き不安要素も残っているが、戸建て住宅需要が増えていることも実感している。各社ニューノーマルに対応した商品もそろえ競合も厳しい状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・1～2月と比較すると若干売上や来客数が持ち直した感があるが、3月末になり第4波の予兆も報道され、再びつらい状況になっている。
		一般小売店【青果】（店長）	単価の動き	・外食産業及び大型店では、前年と比較して物の動きが鈍い分、野菜の単価が上がらない。利益率としては変わらないが、低い売上に対しての利益率になり、かなり厳しい利益状態が続いている。
		一般小売店【茶】（販売・事務）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、売上はすぐに戻らない。外販での売上は大幅減少になり、前年の新型コロナウイルス発生時期より更に売上は落ちている。近隣では、閉店する店も見受けられ、今後が心配である。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響を受け始めて1年が経過し、特需となった食品、雑貨部門は前年比をクリアできず、一方で不振を極めた衣類は、前年は上回るものの著しい改善とはいえない状況にある。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されているが、巣籠り消費、ステイホーム、学校の休校等新型コロナウイルスの感染状況に慣れも出てきて、前年のような大型スーパーマーケットでの買物需要はない。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・12月と比較すると、新型コロナウイルスの報道の増加や緊急事態宣言発出により、緊急事態宣言が解除されたがその影響は大きく、来街者数が激減したため、その結果来客数も激減している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・この時期は例年春の新生活需要でにぎわつが、前月の客の動向から一転し、今月は非常に少ない。前年は新型コロナウイルスの影響、及び法改正の影響で不振であった。携帯電話の復調で、店舗の売上は前年より微増とはなっているが、それを除くと非常に厳しい月になっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍が落ち着いてきたため、来客数や販売量も共に落ち着いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月は例年と比較すると、若干上向いているが、12～1月と比較すると伸びが悪くなっている。新型コロナウイルスの影響による巣籠り景気で家電の景況は良かったが、3月に入って少々下降気味である。
		乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響をかなり受けている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節要因を考慮すると、光回線の販売が伸び悩んでいる。
		学習塾（従業員）	来客数の動き	・申込みが減っているため心配である。
	x	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除を受けて、消費者の巣籠り需要がほぼ終わったとみられ、1か所までまとめて買物を済ませるのではなく、客足はディスカウントストアに一部流れている。
	x	スーパー（統括者）	単価の動き	・緊急事態宣言解除後、外食等の外出も増加しており、内食が減少し来客数も若干減っている。来店客の買上点数や客単価が減少傾向になっている。加えて、競合店との競争も激化している。
	x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前のGo Toキャンペーンの景気の良い状態と比較すると、回復には程遠く、悪い状況になっている。
	x	スナック（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、夜勤しているのは20代の若者ばかりで、中高年層の夜間の人出は少ない。
	x	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが停止になり宿泊客が激減した。県民割引の販売が始まっているが大きく影響は感じない。個人客は少しずつ増加しているが、団体客が全滅であるため、宿泊件数としては激減している。
企業 動向 関連 (九州)		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月から急激に受注が増え、大幅な残業対応している。それでも対応しきれず、納期調整をしている状態である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・巣籠り需要が健康食品の受注を押し上げている。加えて、消費財に機能性を付加した製品が伸びている。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1～2月は厳しい売上であったが、3月は若干上向いている。計画に対して、売上が95%の動きになっているが、外食部門ではまだ不振が続いており厳しい状況である。例年3月は、冷凍食品メーカーや量販店の売上が伸びる時期であるが、4月以降も引き続き上昇することを期待している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月中旬に入り、引き合い案件の受注量が増えている。業界としては、自動車関連が若干多い。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・全事業ではないが、車関連で来期以降の引き合いが増えつつある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置やパワー半導体関連の受注が増加傾向である。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・今までの需要があっても供給できない、作られないといった状況から徐々に増産にシフトしている。まだ少量ではあるが、回復基調である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除となり、気候が暖かくなり、卒業式や会社の移動等もあり、人の動きは3か月前と比較して増加している。取引先の飲食業や来客数や売上も上がっている。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・飲食店の時短営業解除後すぐに来客数が増加し、業務用酒販卸も忙しさが増している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・商社との受注関係取引は、ほとんど変わっていない。年末は、Webのふるさと納税のお陰で売上が伸びていたが、現在の売上は前年と変わらない状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の動きによって多少異なり、電子部品は多少の動きがあるものの、自動車関係は動きが悪く、肝心のICチップは供給不足になっている。加えて生産量が制限され、今の状態がしばらく続くと考えられる。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は解除となっているが、依然物量は戻らない。見通しとしても良い材料が見当たらない。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染者数は減少しており、外出自粛以外の具体策に乏しく、先行きが不透明である。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・家電販売は回復傾向にあるものの、百貨店や住宅販売は伸び悩んでいる。また、新型コロナウイルス感染者数も一部の地域で再び増加し始めたことから、企業の求人が減少、労働需給、雇用者所得とも弱い動きとなっており、厳しい状態が続いている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・地元では新型コロナウイルスの新規感染が沈静化しており、大型商業施設等の客足には回復の兆しがみられる。屋外イベントも会場運営に工夫を凝らしながら再開されており、新型コロナウイルスの影響による取組が徐々に浸透しつつある。
		金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により、景気は中長期的に低迷が続いている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・半導体関連や電子部品等の製造業で、一部持ち直しの動きもみられるが、一方、外出自粛や時短営業といった経済活動の抑制に直接的な影響を受けている宿泊や飲食店等のサービス業では、低水準での推移が続いている。業界によって景況感に温度差があり、全体としては3か月前と同様に景気は悪い状況である。
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・東京からの動きやテレビCM等は景気が上向いているようだが、新聞等紙媒体までは届いていない。
		広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・会社業績が横ばいであり、今後上向く可能性があるが、まだ実績に至っていない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先との情報交換では、大きな変化がない企業が多い。
		経営コンサルタント（社員）	それ以外	・状況に変化はなく、同業者の情報交換でも、確定申告の時期に当たるため動きがみられない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・1～2月の景気は良くなかったため、3月は若干持ち直しており、3か月前の12月と同じような状況である。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言は一旦解除となっているが、先行き不透明感は継続しており、現状から変動していくとは考えられない。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・新しい生活様式に代わり、流通の対応が遅れていることもあり、市況は平年値よりも低めに推移している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節商材の製造販売も一段落しているため、やや悪くなっている。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・例年第1四半期に向けては受注量が少ないが、民間設備投資の意欲が感じられない。延期、中止がまだ続いており、先行き不安である。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・国や県のゼロ債等により発注が多くなり、満足ではないが例年よりは多く感じているものの、市役所のゼロ市債等はほとんど発注されていない。建設業者は、地元の公共工事に依存しており、早めにもっと多くの発注を希望したい。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が発生して1年以上がたち、荷主はどの程度の在庫が適正在庫か把握できるようになり、飲食店向けの食材等が低位安定となっている。半導体等好調な分野もあるが、相次ぐ火災で、今後の見通しが難しくなっている。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村は、新型コロナウイルス感染防止対策のための予算を計上していることから、行政計画に関する調査や計画策定業務等の委託に関する予算が削られている。そのため、コンサルタントへの発注業務が少なく、受注できる機会が減少し景気が悪くなっている。
	×	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響をもろに受けているため、仕事の受注量が少ない。
雇用		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (九州)		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人は中小企業を中心に回復傾向である。大手ではリモートやシステム化が進み新型コロナウイルス発生以前に戻すのは困難である。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・状態が落ち着き、求人数が微増になっている。ただ、新型コロナウイルス禍で売上が伸びたという注文ではなく、試行錯誤をしながら、人員を補充している状況が多くなっている。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・派遣に入ってくる受注の業務内容に関して、業界経験必須のものや専門職種的な職種の依頼が多く、求職者が一番多く探している事務業務は余り動いていない。新年度の募集依頼も活発に動いていない。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・前年の緊急事態宣言解除後の秋から、徐々に回復傾向を示していたが、2度目の緊急事態宣言で前年比60%からの回復が見込めず現在に至っている。これから、取引先も本格的な営業がスタートするため、4月中旬から戻るのはないかと見込んでいる。
		新聞社[求人広告] (社員)	周辺企業の様子	・新聞広告の量を見ていると、緊急事態宣言発出後よりは良くなっているが、3か月前と比較すると、大きく好転したとはいえない。特に、求人広告の動きが悪く、企業が雇用に慎重になっている姿勢は変わらない。
		職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言解除後、飲食業の求人の動きは少しずつ出ているが、相変わらず休業による雇用調整助成金等の申請相談件数は減少していない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数の前年比減少幅は小さくなっており、有効求人倍率も高くなっている。しかし、新型コロナウイルスの終息が見えてこないことから、管内の主たる産業である観光関係の求人の落ち込みは、続いている。
		民間職業紹介機関 (職員)	それ以外	・この春卒業した4年生の内定状況は、ここ数年で一番悪く、リーマンショックのとき以来の状況になっており、特に留学生には、ほとんど求人がない状態である。また、3年生の就活は3月に入り本格化してきたが、早くも内々定をもらっている学生もおり、その割合は前年より高い傾向にある。それは、求人が増えているのではなく、就職難を予想し早くから動いている学生が増えたことと、企業側も新型コロナウイルス禍であるため、早めに採用活動を終わらせたいことも影響しているのではないかと考える。したがって、全体で見ると3年生も厳しい状況であると考えられる。
		学校[大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・2022年卒業求人は、例年どおり動いている。企業の採用活動は活発に動いている。既に内定を得ている学生も見受けられる。
	新聞社[求人広告] (担当者)	雇用形態の様子	・年度末を迎え、新型コロナウイルスで業績の悪化した企業が、更に人員整理等のリストラを進める動きがある。	
	x	*	*	*

## 12. 沖縄(地域別調査機関:一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)		百貨店(店舗企画)	販売量の動き	・2月末で県独自の緊急事態宣言が解除され、3月のギフト需要シーズンは百貨店にとって年間でもモチベーションが高く、売上が確保できる月として期待が高まっている。期待どおり返礼ギフトの順調な動きと物産催事の動員効果で、前年を上回る売上が確保できている。
		一般小売店 [酒](店長)	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後、少しずつ観光客も増えつつある。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・夕方から夜間の来客数が増えている。弁当の売上が前年同期比で増加している。
		コンビニ(副店長)	販売量の動き	・沖縄県独自の緊急事態宣言が前月末で解除され、人通りも前月と比べものにならないくらいにぎわっている。また来客数も2倍近く増加している。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・東京の緊急事態宣言が解除され、3月中盤以降は観光客が沖縄に流れてきているので少し売上也戻ってきている。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響から一巡してきている。前年はなかった入園入学商材の動きが好調である。	
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・沖縄の緊急事態宣言が解除されてから、地元客が徐々に戻ってきている。また、観光客もちらほらと増えており、入客も例年の50%、観光客が多い店舗は80%程度まで戻ってきている。	
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量が前年比で120%と好調である。3月の学生需要と、新しい料金プランが客の支持を受けキャリア自体の好感度が上がったことや、新型コロナウイルス禍で外食やレジャーで消費できない部分が回ってきている可能性が考えられる。	
		住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・企業の転勤等に伴う賃貸住宅の成約も前年より多い。また、住宅販売の問合せも多くなっている。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に関する自粛モードが解消されず、来店客の人数等は日々の増減はあるものの、最終的には以前と変わらない状態である。来客数1000人を割る日が月の半数もあることで、個々人の新型コロナウイルス感染に対する考え、外出に対する意識は戻らない状態にある。	
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・観光向けレンタカー会社はまだ購入を控えているが、一般客の購入意欲は高い。	
		旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・少しずつ販売量は増えてきているが、必要最小限が多い。回復にはまだまだ時間が掛かる。	
		住宅販売会社（代表取締役）	販売量の動き	・戸建て住宅や投資建築物の建築受注が順調である。	
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で客の来店頻度が落ち込み、苦戦する。	
		観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・3月も緊急事態宣言の延長により、首都圏からの観光客やビジネス客は増えていない。併せて緊急事態宣言が出ていないエリアからの客も動いていない。若い層の卒業旅行により若干動きはある。沖縄県内も、緊急事態宣言は解除されたが、夜の宴会は0件である。	
		×	商店街（代表者）	来客数の動き	・現在新型コロナウイルスが、営業時間等に影響していることに伴って来客数が減り、客単価も落ちている。小売店は特に大変な状態となっている。
		×	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの12月の販売室数が前年比20%増とプラスなのに対し、3月の販売室数は前年比36%減とマイナスに転じている。
	企業動向関連		-	-	-
(沖縄)		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・今月に入り緊急事態宣言が解除され、外食の需要や、観光客も若年層を中心に回復しており観光土産の売上も回復してきている。	
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・高価格帯での新規引き合いの相談が増えてきている。	
		輸送業（経営企画室）	取引先の様子	・2月と比較すると助成金を受け取らずに開店している飲食店が目立っている。また、3月後半には観光客の増加が目立ち、景気はやや上向きになっているとみられる。	
		窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比較しても変化がなく、特に民間工事の需要が新型コロナウイルスの影響で低調である。	
	*	*	*	*	
	×	-	-	-	
雇用関連		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・今まで採用実績のなかった企業から、説明会の実施依頼が複数きている。	
(沖縄)		人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・派遣依頼の増加が続いている。また経済の落ち込みに歯止めが掛かってきているように見受けられる。	
		人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・求人案件が増えてきている。ただし人手不足感は否めない。	
		求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・求人数は前年12月と比較すると、3月は108%と増加している。緊急事態宣言が明けた3月上旬頃から飲食店、サービス、接客業も徐々に増加している。ホテル、観光業界の採用もGo To Travelキャンペーンを見越してか、微増している。	
		学校〔大学〕（就職支援担当）	求職者数の動き	・2022年新卒対象就職活動の開始とともに、3か月前と比べると求人数が増えつつある。	
	-	-	-	-	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		-	-	-
	x	-	-	-